

〈資料翻刻〉 神奈川県称名寺蔵 『序分義聞書』

西村 慶 哉

■ 解 題

本書は、神奈川県称名寺所蔵（神奈川県立金沢文庫管理、98 函 2）の国宝 称名寺聖教の一つで、善導『観経疏』四帖のうち「序分義」を註釈した書物である。本書の撰者とされる良忠（一一九九～一二八七）は現在の浄土宗においても第三祖に数えられる人物であり、全国を遊行して鎮西流の教線拡大に努めた。良忠は記主禪師と尊称されるように多くの著述活動を行ったことでも知られ、「報夢鈔」とも呼ばれる彼の著作群は五十巻を超える。

また、良忠は生涯にわたり幾度となく善導の『観経疏』を講義・註釈しており、今日においても三書の『観経疏』註釈書（『観経疏聞書』、『観経疏略鈔』、『観経疏伝通記』）が現存している。その中でも本書を含めた『観経疏聞書』は初期の著作（千葉時代）に数えられるもので、鎌倉で撰述された他の二書とは異なり、建長（一二四九～一二五六）期に東国にて行われた良忠の講義録である。建長期の東国は、有念無念や善鸞事件をはじめとした数々の異義事件が親鸞門弟の間で発生していた時期でもある。良忠の浄土教理解は親鸞の理解と相違する部分も多く、上述の異義事件についても、良忠の影響が示唆されている。¹⁾ すなわち本書は、建長当時の東国における浄土教はいかなるものかを明らかにする上でも有用な史料である。しかしながら、良忠最晩年の著述である『観経疏伝通記』

（極再治本）がすでに翻刻されていること、その『観経疏伝通記』と本書とにあまり思想的な差がないとの指摘がなされていること等より、本書が研究の俎上に載する機会はあまり多いものとはいえず、長年未翻刻のままであった。たしかに本文を対照すると、『観経疏伝通記』や『観経疏略鈔』とは重複する見出しや内容も多いが、中には『観経疏聞書』のみ見ることで見出しや内容も散見される。これらを抽出することで、良忠初期教学を解明する一助となることも期待される。

現在『観経疏聞書』は「玄義分聞書」、「序分義聞書」、「定善義聞書」の書写本三点が伝存し、いずれも神奈川縣称名寺に収められている。「玄義分聞書」と「定善義聞書」は良聖による書写であるが、本書はこれらとは別筆であり書写者は判然としない。ただし表紙右下に「永薫」「願信之」の名前が見えることから、永薫もしくは願信なる人物の手沢であったと考えられる。また特徴的な筆跡は、筆者が以前に共同翻刻した称名寺聖教『法事讚光明抄』等の書写者である永源とも近似しているが、紙面の都合もあるため書写者についての検討は他日を期したい。

本書の撰者は良忠であると述べたが、本書には「序分義聞書」の内題はあるものの撰号は書かれておらず、後述のように奥書・識語も見当たらない。しかし、先述のように『観経疏伝通記』『観経疏略鈔』とも重複する箇所も多く、内容面から「良忠の撰述書としてほぼ間違いない」と判断されている。また、「玄義分聞書」および「定善義聞書」には紙面上に良忠による講義のあった日数が記入されているが、本書にはこれらの日数は記入されておらず奥書・識語もない。そのため本書の成立年は不明と言わざるを得ないが、「玄義分聞書」「定善義聞書」の両書は「建長七年」の奥書を有していることから、本書も同じく建長七年頃の成立と予測される。

本書は前述の通り、善導『観経疏』四帖のうち「序分義」の文言や内容について「●●●事」との見出しを示しつつ註釈を行ったものである。ただし、本書は「定善示観縁」中の「説清淨業」（『聖典全書』一・七一六頁）を註釈している途中、「答ふ。二釈あり」（三二丁オ）としたところで途切れてしまっている。後年成立の『観経疏略

鈔』では、「説清浄業事」に続いて、「貪欣極樂事、此乃玄談未得標得処等事、如是凡夫事、有異方便事、如上光台所見等事、若仏滅後事、濁悪不善五苦所逼事」(『浄全』二一・五〇三頁下)との見出しを立てていることに鑑みれば、当本もしくは当本の書写原本に七項目分ほどの散逸があるものと推測される。

なお、本書の装丁は綴葉装であり、料紙は楮紙、紙数は三十一丁である。法量は、縦十四、八、横二十二、八糎であり、体裁は半葉が十九行ないし二十三行、一行十六字内外である。

■凡例

- ・ 読解の便を図り、本文の字体は基本的に新字通行体にあらためた。
- ・ 明らかな誤字や音通字等、別字と判断できる文字に関しては原文のまま表記した。
- ・ ただし、略字と判断した字体に関しては、正字にあらためた。(例：尺↓釈、辟↓譬)
- ・ 右訓の略字については原文のまま表記した。
- ・ 漢字にかかる繰り返し記号はすべて「々」で翻刻した。
- ・ 改行およびスペースは基本的に原文に従い、行頭には行番号を付した。
- ・ 訂記や補記など、特筆すべき事項については註に示した。
- ・ 原文の細字・割書については「」で示し、改行位置には「/」を付した。
- ・ 湮滅等による判読不能の文字については□で示した。
- ・ 本文の抹消箇所については、曳せ消ち線を付し、本文の右側に付く傍註は対象の文字の上に【】で示した。

■ 翻 刻

〈表紙〉

右下「永薰ノ仏説 説 願信之ノ「真言」秘事本旨、
制者也ノ頭宗秘義為立義一願者請儀也」如是」中央
「序分義聞書ノ序分義聞書ノ仏仏説転女成ノ序分義聞
聞聞」左下「觀經疏聞書ノ聞聞書」

〈表紙見返〉

- 01 凡夫若得到西方曠劫塵沙罪
- 02 滅亡 具六神通得自在永除
- 03 老病離無常
- 〈二才〉
- 01 序分義聞書
- 02 私云此以下等事 今從此以下等者玄義分然後
- 03 依文釈義約束置 指此文ニ云就文簡料等也
- 04 就文料簡与依文釈義三言異 義同也
- 05 略作五門事 何对広五門云略歟
- 06 答序分之中ニ二序三序并六縁及化前等

- 07 文下各多科段ノ後四門ノ有多細段ノ是広
- 08 五門云略也 問安公ノ以経分三段ノ今何
- 09 立五門ニ歎答多用三段ノ諸師不爾事
- 10 有宗密円覚経疏ノ始立十二章ノ釈之ノ嘉
- 11 祥之今経疏立五門ノ釈経此但今五門不
- 12 出三段ノ從王宮之正宗ノ開得益分ノ為四門
- 13 加祇舍分ノ為五門ノ故也 三段五門但開合異也
- 14 故文云上来雖有五義不同略料簡序正流通
- 15 義竟「已上」 五門結歸三段ニ可思之
- 16 問何故從正宗分ニ開得益分ニ歎答開合常
- 17 事也有何故ニ得益合 正宗ノ事在座之機聞
- 18 正宗ノ所得ニ益 故為一正宗ニ也開得益
- 19 立別ノ事如来ノ正説与機之得益ニ別 故也
- 20 又云并提之得益光台現国与第七観文
- 〈二ウ〉
- 01 処乱ノ第七観得ニ益判ノ宗之大從ノ故
- 02 別得益分ノ事為定ニ得処ニ也 又他門様々之
- 03 義有ケニトモヲホエス諸経之中座在聞経
- 04 益為正宗ノ仏未來之得益ノ説給ノ属流通

- 05 事常習也今經之得益分會可正宗分也
- 06 疏記一云古來講者多無分節至安公來
- 07 經無大小始分三段為序正流通「已上」 元照觀
- 08 判經「彌天為始」「已上」
- 09 能化等事 化者正宗也化贊也化有三義
- 10 一「伝惡」作善二「転迷」作悟三「云々」
- 11 如來所説必有由々即云序也諸經
- 12 皆有由序「法花」現六端「大品般若」從適体
- 13 毛孔「放光」照如恒河沙世界「給
- 14 今此經以惡逆為由序」
- 15 歎勝勸学事 問伝末代歎勝
- 16 勸学之義広可云亘定散念仏一歎
- 17 答可爾一難云今經念仏超定散一説歎勝
- 18 之義可限念仏一聞 以此流通分之經云云若
- 19 念仏者人中分陀利花「已上」 又云念仏三昧
- 20 功能超絶実非雜善得為比類「已上」
- △一才△
- 01 經云持是語者即是持无量寿仏名「已上」

- 02 釈云上來雖説定散兩門「已上」 流通分之經積分
- 03 明念仏独勝一見 今歎勝之文可限念仏
- 04 若限念仏云一經之流通也何不流通定散一歎
- 05 答一經之流通何漏一正之流通一歎以此
- 06 流通分之經云行此三昧者報身得見无量
- 07 寿仏乃至但聞仏名一菩薩名除无量劫生死
- 08 之罪「已上」 釈云比較頭勝勸人奉行「已上」
- 09 准之「從行此三昧」何況憶念「定善十三
- 10 觀之流通也苟定善比較修勝「已上」今歎勝
- 11 有何別一「次歎」念仏一「流通」下三品之行一也知
- 12 此經之流通広可亘定散云事但功能超絶
- 13 等之釈勝「定散之上」又説勝義「釈也非難」
- 14 一「証信」序事 如是者信我聞者説也
- 15 一「説」無虚妄一事聞何人云阿難我聞
- 16 云信 所化云也仏説五十年之説教阿難
- 17 後二十五年參聽聞一已説之經阿難結集
- 18 仏告阿難一「汝多聞者我涅槃後汝我所
- 19 説之經」可伝説一「汝已説重轉」言為

二ウ

- 01 重説給此意釈論一 智度論□□釈尊
- 02 涅槃之時阿泥盧豆以四事阿難令問仏一
- 03 一如来滅後以誰為師二滅後比丘何処
- 04 為住処三惡行之比丘何共宿四結集
- 05 之經始可置何言一仏始問答 波羅提
- 06 木叉是汝師也答次問可住四念処謂
- 07 為不淨受不樂心无常法无我答次問一言
- 08 默可共宿答後問言結集之經始可置
- 09 如是我聞梵本外道之經始置阿漚之二
- 10 字一仏經置如是我聞也
- 11 一天竺之經題名置終一堅束題名置始一也
- 12 解義之者為令易解也
- 13 從如是我聞二句事 問六成就之中如是
- 14 者信成就我聞者聞成就也既二句也何云
- 15 一句一歎 答解義時二句 誦誦之時文
- 16 少故為一句一歎又証信之一文為一句一意歎
- 17 法花論立六成就嘉祥等皆依之一信成就
- 18 如是二聞成就我聞三時成就一字四教主成就仏

- 19 五住処成就「在王舎／城中」六徒衆成就「与大比丘衆」

三オ

- 01 仏説教有此六成就説始也天台嘉祥六
- 02 成就一向取証信序淨影一時已下取
- 03 証信發起一 淨影觀經疏云一時已下義雖
- 04 兩兼 对前一向証信序一故自下偏就
- 05 發起一以釈「以上」同大經疏云一時仏下義可
- 06 兩兼一取其本事發起之義一判為發起
- 07 阿難引来証誠可信名為証信一義既兩
- 08 兼不可偏取一人情是非備如常弁一「已上」
- 09 總標教主事 問教主云總一阿難云
- 10 別一總別之意如何答如来凡聖三乘
- 11 人天八部等之教主也広化万機云總一阿難
- 12 无量之所化中一人之故云別一「覺明義」有云淨影
- 13 云今釈迦説如於過去一切仏説「已上」釈迦之説
- 14 諸仏説等云總一歎 又言如是者即指法等事
- 15 問指法云意如何答是依淨影之釈一也
- 16 彼釈々如是一解有兩義一約法解一約人解云

17 今積上如是標教主云當彼師約人今指
 18 法者當彼師之約法也所詮如是云積迦云約法也
 19 難云淨影法先人為後今積何□彼師

〔三ウ〕

01 人先法為後歟答今積先後力へタル事有
 02 重意下我聞之句一向人故人如是与
 03 我聞共人先總積一具可積一故結復
 04 積二意此意歟後如是与我聞別積總積
 05 之上別積スルニ有便一故約法如是別積
 06 我聞又別積也可思之
 07 問約法之如是有三重之積何意歟答第
 08 一總也二三別積也於中第二機法相望積
 09 如是能化之教隨機一故機与教不相違一
 10 有利益名如是也第三之積教法相望積
 11 如是謂能說之言教所說之法体毫釐
 12 不違一故云如是也 說漸如漸等事
 13 問是拳何法一歟 答教法相對拳十
 14 对甘法也說漸者教如漸者法也已下可知
 15 漸者歷劫修行之法也如瓔珞經等頓者

16 速疾直往之法也如觀經ミタ経等相者
 17 事相五位百法等是也空者理性真如実
 18 相等也人法者五戒天法者十善禪定小者小
 19 乘声聞義大者大乘菩薩義凡者五道

〔四オ〕

01 聖者三乘因者流轉還滅之業因即集
 02 諦道諦也果者流轉還滅之果即苦諦
 03 滅諦也苦樂者可有二義一三界之苦樂共
 04 名苦一流轉繫縛也一苦故淨土之果報名樂
 05 真実无漏之樂 故一於三界之中一惡道之苦
 06 人天八苦五衰等是苦也五欲禪定之勝等樂也
 07 於淨土之中一地前望地上為苦地上望地前為
 08 樂一等是也遠近者所望不同遠近可不一
 09 一常三千界之中為近処三千界之外
 10 為極遠処或八万劫之中為近時二八万
 11 劫之外為極遠時一同別者於諸法一同
 12 類為同一異類為別一或於仏教一仏智為
 13 同一隨宜方便為別一淨工者淨土為淨一工土
 14 為工一或惡有覆无記為工一无覆无記与

- 15 善^ニ為^レ淨^一
 - 16 阿難^ハ是^レ仏侍者事^ト 除^ハ仏^ヲ沙弥^ヲ為^レ侍者^ト 受^レ
 - 17 具足^ニ戒^ニ不^レ為^レ侍者^ト 仏^ハ有^ル学^ノ之^ハ聖者^ト 為^レ侍者^ト
 - 18 証^{ツレハ} 无^{クハ}学^ヲ 侍者^ト之^ハ給^{ハス} 此故^ニ阿難^ニ□^ニ有^{クハ}学^ニ
 - 19 不^レ証^ル无^{クハ}学^ト也^ト 又^レ言^フ証信者^事
- 〔四ウ〕
- 01 問^上云^ニ阿難^ハ是^レ仏侍者^ト 文^ト今^ノ阿難^ハ稟^ル承^等云^ニ文^ト
 - 02 同意^也似^ク重^ニ言^ニ如何^ト 答^上直^ニ如^ク是我^ハ聞^ル經^ト
 - 03 文^ヲ积^下积^下积^下以此^ニ文^ヲ 积^ル名^{証信}序^ト之^ハ得^ル名^ト
 - 04 之^ハ故^ト也^ト 此^レ就^テ阿難^ハ解^ル事^ト
 - 05 問^ニ文^意如何^ト答^フ【覺明□】有^{クハ}云^ニ証信^序又^{クハ}名^{証信}序^ト又^{クハ}名^{証信}序^ト
 - 06 故^ニ云^ニ 弟子^序 此^レ就^テ阿難^ハ解^ル 积^ル也^ト
 - 07 今^ノ云^ニ人^師立^ル証信^序 有^{クハ}二^義 如^{クハ}嘉^祥天^台等^ノ
 - 08 六^成就^皆屬^{証信}序^ト 此^レ因^ハ同^ノ聞^ル衆^ヲ 為^ル
 - 09 証信^之人^ニ也^ト 如^{クハ}今^ノ家^ヲ 以^テ如^{クハ}是我^ハ聞^ル之^ハ文^ヲ 為^ル
 - 10 証信^序 此^レ自^ラ阿難^ハ自^ラ為^ル証信^之人^ト 也^ト
 - 11 有^{クハ}二^義 之^ハ中^今阿難^ハ云^ニ為^ル証信^ト 积^ル也^ト 意^ハ就^テ
 - 12 阿難^ハ解^ル 証信^序 云^ニ也^ト
 - 13 問^ニ証信^發起^之二^序 有^{クハ}異^{クハ}名^{証信}歟^答爾^也 証信^ト

- 14 序^ヲ 又^{クハ}名^{証信}通^序 經^後序^ト 弟^子序^ト 一^發
 - 15 起^序 亦^{クハ}名^{証信}別^序 經^前序^ト 如^{クハ}來^序 一^也 通^ル
 - 16 諸^經 故^{クハ}名^{証信}通^序 異^{クハ} 諸^經 故^{クハ}名^{証信}別^序 証信^序
 - 17 結^集之^ハ代^ニ□^ニ說^ニ經^之序^ト 故^{クハ}名^{証信}經^後序^ト 從^ル
 - 18 在^世之^ハ經^ニ 後^ニ 故^{クハ}也^ト 發^ル起^序 在^世之^ハ音^聲
 - 19 經^序 故^{クハ}名^{証信}經^前序^ト 從^ル 在^世之^ハ經^ニ 前^ニ有^{クハ}故^ト 也^ト
- 〔五オ〕
- 01 弟^子序^者阿難^ハ之^ハ所^ヲ 為^ル 故^{クハ}如^{クハ}來^序 在^世之^ハ說^ト
 - 02 相^等 故^{クハ} 發^ル起^序 中^ニ細^分 為^ル 七^事
 - 03 問^ニ細^分者^何□^ニ 廣^ニ 對^テ 歟^答上^ニ就^テ前^序 中^ニ
 - 04 後^分 為^ル 二^科 文^廣 對^テ 二^云 細^分 一^也 此^レ則^分 二^也
 - 05 序^對 略^作 五^門 細^段 立^ル 七^序 對^テ 為^ル 廣^也
 - 06 一^時 仏^在 等^事 問^ニ 仏^之 字^ハ 一^句 也^ト 在^之 字^ハ 可^屬
 - 07 下^句 今^何 乱^句 逆^牒 仏^在 一^句 歟^答 在^之 字^ハ 句^ト
 - 08 始^ニ 王^舍等^之 字^ハ 略^ト 【覺明^義】 有^{クハ} 云^ニ 在^可 通^上
 - 09 下^能
 - 10 在^屬 仏^ニ 所^在 屬^住 處^ニ 也^ト 今^ノ 此^レ 義^ハ 不^レ 其^証 □
 - 11 二^從 王^舍 大^城 下^事 問^ニ 何^爾 時^之 文^ハ 略^歟
 - 12 答^化 前^之 一^時 禁^父 之^ハ 爾^時 一^故 且^レ 為^ル 顯^ト 此^レ

- 12 意略之歟此則上一時讓不举之歟
 - 13 正明發起序禁父之縁事 問上發起序中
 - 14 細分為七云七序皆聞 發起序□發起序禁父
 - 15 之縁歟 又限之付發起序之名事意如何
 - 16 答大師釈序分給始約二序後約益□始
 - 17 証信序次化前序後 發起序无序之時化前
 - 18 序非發起序故今釈約二序 釈スレトモ又三
 - 19 序心地存云三序之時從禁父縁可發起序
 - 20 云意顯也
- 〈五ウ〉
- 01 問正明之正字意如何 答化前序属發起
 - 02 有二故属時仏祇山聞念惡逆之事一依
 - 03 半提請説觀經思念是如來之照機也約
 - 04 此辺化前即遠發起也傍發起也若不属
 - 05 之時正五逆之先ナレハ別立化前序也故禁父
 - 06 縁近發起正發起 正明 釈也 又次第二
 - 07 置發起序之言一事第一非發起第二已下
 - 08 六縁明發起 儀如釈第三依文
 - 09 釈義并弁宗旨不同

- 10 六縁事 問何故化前序无縁之字 後後
 - 11 六序立縁之名 歟又縁者何 義歟答縁者
 - 12 為正宗近成縁起 為縁 歟隨 化前証
 - 13 信可云縁今遠序近云縁 歟總以此大
 - 14 縁 序品名縁起品 又答次問 〔覺明義〕有云唯
 - 15 事因縁云事也云惡逆之因縁也
 - 16 今云サテハ顯行示觀之両縁法門也非事
 - 17 因縁何云 因縁 歟但為後説成縁起事也
 - 18 問成後縁起者六縁鉤鑠 禁父縁 禁母
 - 19 々々縁 厭苦々々縁 欣淨々々縁 顯行々々
 - 20 縁示觀々々縁 正宗云歟ハタ六
- 〈六オ〉
- 01 縁総縁 正宗云歟 答二義共有也六縁
 - 02 共正宗縁 事分明也又禁父等四縁次第
 - 03 縁起 分明也欣淨縁請 定善 顯行縁
 - 04 開散善 仏智不開散善 而説 定散善 請
 - 05 定開散 終可説定道理有 故欣淨縁
 - 06 顯行開散善 事為 説所請之定善 顯行縁
 - 07 示觀々々説觀之利益 事機修行マケマス也

- 08 故縁^ニ正宗^ニ可思^ラ一 化前序事
 - 09 化前序有文^ニ有義^ニ文者從一時^ニ至上首^ニ義者
 - 10 從一時至厭苦之半^ニ 仏從耆闍崛山^{ヨリ}上文^ニ也
 - 11 問何故文義前後^{スル} 歟 答說必次第^{スル}也今家
 - 12 釈云化必有由故先○後明流通^{ニテハ} 淨影之釈
 - 13 全同也 二次解化前序事
 - 14 二次也 問准^ル上標示^ニ可云一前化前序^ニ
 - 15 何云二次解化前序^ト 歟 答大師於序分之文^ニ
 - 16 立^テ二序三序之科文^ニ給^{ヘリ}二序之時如所難^ニ可云
 - 17 一先解^ト今釈存^{ハシ}三序之意^ヲ云二次解^ニ也
 - 18 問其二序三序之証拠如何 答文^ハ□化前序
 - 19 中後分為二一証信序二發起序也
- 〈六ウ〉
- 01 又云發起序中細分為七「已上」 又云二就禁父
 - 02 縁中「云々」乃至七就定善示觀縁中「云々々」
 - 03 已上釈二序
 - 04 之意^ヲ也結序分^ヲ文云初明証信序次明化前
 - 05 序後明發起序上來雖有三序不同總明
 - 05 序分竟「已上」 又云二次解化前序「已上」 已上

- 06 釈三序之意^ヲ也 又云二正明發起序禁
 - 07 父之縁「已上」此釈顯^ハ二序三序之二意^ヲ也
 - 08 問何故大師作^{マリ}二序三序之二^ニ釈^ニ給^{ヘル} 歟
 - 09 答化前如來之觀機^ニ機之發起隱^{タルカニ} 故遠
 - 10 發起^{ナレハ}不入發起序^ニ夫人欣淨土^ヲ事依^{ルカ}
 - 11 惡逆^ニ故近發起正發起^{ナレハ}立^ル三序^ニ也二序
 - 12 之時^ハ不論^ニ遠近^ニ此經發起^{ナレハ}立^ル三序^ニ也二
 - 13 序之時^ハ不論^ニ遠近^ニ此經發起^{ナレハ}化前入發起^ニ也
 - 14 一時事 問一時者幾^ニ時歟 答一經之說時^ヲ總
 - 15 云一時^ト也時通^{ルカ}長短^ニ故也法花之二時^ハ八ヶ年也
 - 16 花嚴^ハ三七日^ヲ云一時^ト也
 - 17 天台云法王運開嘉會^{クワイキル}時至^ル「已上」
 - 18 天台疏云不論長短假實說此經竟總云二時「已上」
 - 19 起化者說法也
- 〈七オ〉
- 01 一時者正得明起化之時事 問經文^ニ一時^ハ等云^{ハク}
 - 02 下所言^ハ時^ハ可^ハ亘^ニ一經之說時^ニ 歟 答可^ハ亘^ニ也
 - 03 難云若亘^ト云^ハ從一時^ニ至而為上首^ニ是化前序
 - 04 之文也而仏前時者^ス在耆闍^ニ一時^{ナル}へシ何通^ル一經

- 05 之說時ニ歟若依之ニ不通ニ云者今釈言一時者正
 - 06 明發起之時云知通一經起化之時ニ云事加之
 - 07 以下形上以上形下之釈広可通ニ初後ニ也若今ノ
 - 08 一時限始ニ一經之說時有何文ニ歟 答一時者可亘
 - 09 一經之說時ニ也此時外別不說說時ニ故也是以テ
 - 10 正明發起之時之釈亘一經聞 但至一辺之難今ノ
 - 11 一時雖亘ニ一經ニ而為上首之文限見 一時之文ニ限
 - 12 化前之時ニ從後文ニ見亘一經之說時ニ也
 - 13 化主臨機待於時処事
 - 14 問今釈一時ニ何奉処ニ歟 答說法為必云依時
 - 15 処ニ也実今ノ時為処ニ也
 - 16 又言一時者或就因縁等事 問意如何
 - 17 答上言正明起化之時者正釈今經之一時ニ今日夜
 - 18 十二時者總舉諸經之說時ニ此則六成就文
 - 19 通諸經ニ義一經別 故言通方広釈也
- 〔七ウ〕
- 01 難云可釈今經時処ニ何釈他經ニ歟 答是不立ニ
 - 02 先ニ歟言通釈也 天台云通序通諸經ニ別序ハ
 - 03 一經屬也但通序又有通ニ有別ニ通皆云如是等ニ

- 04 通也如是詮異我聞人異一時々異仏教主
 - 05 異住処々異同聞人異 別也〔已上〕
 - 06 又仏地論之中声聞菩薩之先列事釈立八種之
 - 07 義ニ中第二之義云撰不定性廻心為大故〔已上〕
 - 08 妙染云唯第二ニ半独属今經〔已上〕 仏地經釈
 - 09 同聞衆ニ挙法□之意ニソカシニ云ノタ
 - 10 山林処等事 問此八処之說有其証歟
 - 11 答四分十誦智論地持論処々散在有
 - 12 山林者玉篇云高土有石云山平ニ土有木
 - 13 云林ニ〔文〕 聚落者宝也 曠者遠也
 - 14 玉云平土有草ニ為野ニ〔文〕
 - 15 八部事 天龍夜叉等也合天龍加人
 - 16 非人ニ釈一開天龍不加人非人ニ釈一也
 - 17 合者龍者天眷屬 故玉云洪者大也
 - 18 大聖垂慈必待請事 問十二部經之
 - 19 中有無問自說經ニ如何 答云自說無
- 〔八オ〕
- 01 口請ニ許也意ニ背有情之意也例□如譬
 - 02 喩品索 車有ニ機索情索口索之ニ妙染

03 釈ル法ニ花ノ之ハ如シ是レ一ニ約ハ教ノ之ハ時ト約ト 四ノ教ニ
04 釈ル法ニ花ノ之ハ如シ是レ義ニ云フ若シ非ズ超ス八ノ之ハ如シ是レ
05 安ク為ル此ノ經ノ之ハ所ト聞ク「文」
06 又シ一ノ時ト者ハ阿ノ闍ノ世ト正シ起ル逆ル時ト事ト
07 問フ文ノ意ト如ク何ノ答ト上ニ広ク釈シ經ノ之ハ時ト処ト畢ス
08 今ニ釈ル正ニ釈ル此ノ經ノ之ハ一ノ時ト也ト
09 以下ノ形ト上ニ以上ノ形ト下ノ事ト 問フ文ノ意ト如ク何ノ答ト
10 化前与禁父一釈同時也 下者下ノ
11 禁父縁之爾時也上者化前序之一時也文ノ
12 上下ナレハ云上下也故闍世造惡之時
13 仏ハ在善山ニ之時也云以下爾時一上一時ト
14 同日故也又佛在善山ニ之時王宮起ル
15 逆ニ云フ以上二時下爾時同日顛也
16 言佛者乃至簡異餘佛事
17 問佛者諸佛之通号也通余佛義聞
18 全不顯簡異余佛ノ之意ルスヤ厭
19 苦之九文見佛世尊釈迦牟尼佛云
ハ八ウ
01 釈云簡異余佛ト如何答云釈迦娑婆之

02 教主ナルカ故唯云佛有簡異之意也
03 他界佛ナラハ可云云ミタ佛藥師佛也
04 故聖人被仰此義云此房云御房ト源也
05 空之他人某之房ト名ヲ呼也
06 其様直云佛聞釈也
07 私師云孝經云子日注云子男子通稱也
08 師一而已故不稱姓「文」今同但至下文云佛有簡異余佛之意下ノ
09 云釈迦有簡異余佛之意也今化前
10 之佛顯露也下王宮密化也縱他界之佛
11 密可來一故也
12 難云夫人上向善山禮釈迦應念一來処
13 佛是不有釈迦歎答云礼釈迦
14 心厭苦欣淨土故可通余佛也故云釈迦
15 迦簡異余佛也
16 一遊王城等事 問經文在王舍城耆闍也
17 崛山中文爾此拳二云之說処歎也
18 答淨影今家意不爾嘉祥如也
19 所問也点云在王舍城耆闍崛山中

〈九才〉

- 01 可読也此点今家之意「文」
- 02 難云今經二処二云之說也六成就之下 举王
- 03 宮者山不三俟二言二云之說処也云事
- 04 是以今 积総化之処即不言二云 举二
- 05 会之說処二 积スルナルヘシ 如何 答淨影以今
- 06 文二弘異起化序二善導以今文二立化前序二
- 07 給 既化前之処也何云 說法之処歟但至今
- 08 积二正非积 經此王宮者山二通聚落
- 09 化俗衆一山等 化 出家云也上 举 八処之說
- 10 処二ヘシ今文既 举 王宮聚落 不限 王
- 11 舍城 者山等 処云 不限 者 闍崛山 事
- 12 分明也 又在 家者等事
- 13 是総者 举 在家之先 功徳 為勸 二
- 14 今 〇〇 也 私 云 請心者 淨心也 淨心
- 15 者 善心 々々 者 〇〇 之心 也是 即 三 心 也
- 16 猶如 画水事 涅槃大集 之 二 經 有 此 譬 一
- 17 問 在 家 之 者 善 心 如 画 水 一 ナラ 〇 前 三 果 之
- 18 聖者不可通在家 初心之菩薩不可有在家

〈九ウ〉

- 19 中 如何答今 积大旨 也在 家
- 01 中 非 无 善 心 直 行 之 者 惡 心 維 摩 大 士
- 02 形 在 家 心 出 家 藥 王 之 本 師 避 塵 還 「已上」
- 03 維摩上聖 權來行実云勸実者 也
- 04 龍興觀經記云在家之出家々々之在家出
- 05 家之出家在家之在家四句作
- 06 問在家者何物歟 答優婆塞優婆
- 07 夷云在家一比丘々々尼等 五種云出家 是
- 08 常途之名目也然龍興以義一作四句 也如
- 09 是一事常習也 妙樂出 三界 為出家
- 10 不出三界 為在家 积 理 积 義 积 觀 心 之 积 也
- 11 加樣 积 事 アル 也 非 本 說 或 迦 葉 童 子
- 12 自此之前我等皆名邪見之人文不知仏性
- 13 属邪見 也 或 諸 法 実 相 餘 皆 魔 事 云 事
- 14 為令解 理 一 カク 說 也 金 剛 般 若 「云 々 々」
- 15 亡身捨命等事 問亡身捨命已下 〇
- 16 如何 答唯出離重 身命輕 意也此心
- 17 堅固 譬金剛明了 譬円鏡也 「云 々 々」

- 18 出離之智鏡面光水異影現時隱者只分
 〱〇オ
 01 明思ニシ分ヲル不カ闕カ也不遂テ其思ヲ狐心ヲ不ク〱〱譬
 02 金剛ニ也 鬻塵者譬在家之五欲ニ也
 03 問境界依止之ニ住意如何答境界者所化之
 04 境界也言心ハ仏雖不可住シモ在家ニ大悲之ニ就
 05 境界ニ且住給也依止者住処也住処ハ在ルカ
 06 山ニ故云依止住ト也 法蘭珠林云所謂天衆无
 07 有血肉便利不淨ニ云々 与大比丘衆已下事
 08 是ハ举同聞衆ヲ也問举声聞菩薩之ニ衆ヲ不举
 09 雜衆ヲ事如何 答訊者之存略也耆闍之
 10 流通 无量諸天及龍夜叉ト已上レ例如无量
 11 寿經ニ举声聞菩薩之ニ衆ヲ為問本異訳経ハ举
 12 无量之雜衆ヲ也又化前之徒衆ト与耆舍ハ同
 13 聞衆ト同人 故也 私云声聞菩薩之外六道
 14 之衆生皆云雜衆ト也
 15 声聞菩薩之前後事 問菩薩ハ上根也上生也止
 16 期ス仏処ヲ声聞下根也下生也非入無余ニ不爾
 17 者菩薩勝声聞劣也何声聞ヲ為前ト菩薩ヲ為後ト歟

- 18 答地論立八種之義 人師略存レ兩三之理ヲ淨
 19 影立三義ト近遠分別声聞常如來近
 〱〇ウ
 01 菩薩ハ利生之故不近ニ仏ニ形相分別声聞ハ威儀
 02 嚴ク世共尊菩薩ハ隨機ニ形不定也三就德之
 03 分別小乘ニ声聞ハ同斷滅菩薩ハ不斷惑ヲ若大乘
 04 菩薩所斷勝レ小乘面ニ声聞ヲ上列也天台疏〱
 05 二乘外相為勝ト菩薩心雖是勝外相无定ニ文
 06 声聞衆為九句事 問此科文経可配屬ス
 07 答有当ル文ニ有不ニ当ニ謂ク第一ハ積与レ之言ヲ第二ハ
 08 当大之字ニ第三ハ当比丘之字ニ第四ハ衆之
 09 字ニ第五ハ无所当ニ第六ハ当千二百五十人俱ニ
 10 第七第八无所当ニ第九同此五七八之不レ当
 11 文ニ不ニ会ニ總大之天ニ也
 12 問何以故无経文ニ立果証等ノ四大ヲ歟答
 13 積ル余経ヲ皆是大阿羅漢諸漏已尽无復煩惱
 14 速得己利尽諸有結身得自在之歟德
 15 之文レ是レ今経ニ略ト声聞歎德之言ヲ梵本之経ニ
 16 定有得意立果証等之四大ト也例如下菩薩

- 17 衆中引大經「積菩薩之歎德」
- 18 仏身兼衆故名為与事 問經文与大比
- 19 丘衆俱□者所言「与者阿難」為能与也仏
- △一才▽
- 01 為能与「歎如何答今釈仏為能与釈
- 02 難云上云如是我聞「下云与大等」阿難可為能
- 03 与「也是以天台釈法花之与大比丘阿難共
- 04 彼万二千人「已上」如何答大師如是我聞之一句
- 05 為証信序「故下与不可兼」一時已下発
- 06 起也故仏為能与「可云也知今徒衆約」王宮
- 07 会「非同聞衆」何我聞之所与「举二衆」歎
- 08 問声聞衆之九句法体如何又下八大似「歎德」
- 09 第一之与字又可然歎 答第一「非」歎德「
- 10 下八大歎德」无大失「歎又此等之声聞仏
- 11 徒衆也」云当歎德「歎又八大之中第一総大下
- 12 七大之総也相大者歎外相」即比丘形也
- 13 衆大者歎能化之四衆「也数大者歎所化之
- 14 釈尊」也耆年大者年闍「也尊宿大者
- 15 長老尊者也約有実徳大者智四弁

- 16 円定「六通遍内習玄義」外「達五明」□
- 17 俱解脱之人也果証大者小乘果也五明者
- 18 声明工巧方医方々因方内々也
- △一ウ▽
- 01 問曰一切首皆有等事 問此句意諸經之
- 02 対機不定也必「不可有二千二百五十人問歎」
- 03 有「許為」由地「問歎如何答」共問也下釈
- 04 二意見也 三迦葉弟子等事
- 05 経律異相「迦耶三百那提二百「已上」法花之科文
- 06 那提三百迦耶三百「已上」経々異説不談和会也
- 07 三迦葉兄弟也優楼頻螺「先聚落」故所名
- 08 為名「伽耶迦葉住迦耶山」故那提里名也
- 09 其里有河「其河名云也摩訶迦葉」別人也
- 10 仏言「除迦葉」余衆生皆依我知識「出離
- 11 弟子迦葉等悉是中乘根性「已上」
- 12 舍利弗目連共「一処」領「二百五十人之弟子」
- 13 二人義同故也 千二百五十人事
- 14 問加能化之五人「可云千二百五十五人」如何
- 15 答金剛般若之疏可云千二百五十人「举満

16 數^ヲ二故不云五人^一〔知リ〕若過若減皆存大數
 17 之意也但是加陳如等之五比丘^ニ依此釈^ヲ也
 18 龍興記同之^一 私師云^ニ總標^ノ千二百五十人之外^ニ
 19 有十余人^ニ也謂能化之五人及五比丘阿難羅睺羅
 〆二一牙〆
 01 摩訶迦葉阿那律等也金剛山論^ニ千二百五
 02 十五人^トハリ 問曰此衆中亦有非外道者事
 03 問第一之答^ニ此等聲聞多是外道〔已上〕小分有非
 04 外道^ニ之者^ノ聞何重致此問^ヲ一 歟 答【覺明義】有云
 05 多有^ニ二多少^ノ之多皆多義同之上多^ハ可^ク
 06 乱^シ皆多義同^ニ故為令^ニ知^ニ多少之多^ト致此問^ヲ
 07 歟 答諸經列^ニ多衆^ヲ有總標別名^ノ之二^一
 08 文段^ニ而總標句^ノ多^ク標^キ千二百五十人^ト列^ル
 09 或^ハ拳^ケ廿一重^ヲ一 拳^ケ十六聖等^ヲ而^ニ別名^ノ之中^ニ多^ク拳^ケ
 10 下外道^ノ之者^ノ總標^ニ標^ル本外道^ノ之千二百
 11 五十人許^リ總標^ト与^ト別名^ト違^ハ難^シ也
 12 難云今經^ニ有^テ總標^ノ无^ク別名^ノ何向此經^ニ致此義^ヲ一 歟
 13 答縱今經^ニ无^ク別名^ノ之文^ト准^ル他經^ニ致此難^ト也例^ハ
 14 如^シ聲聞衆^ノ之九句菩薩衆^ノ之七句准^ル他經^ニ立^テ文段^ト一

15 是以^ニ標^ル千二百五十人^ト事^ハ外德勝^{タル}人^ニ
 16 故^ニ云^フ別非外道^ノ之者^ノ事^ハ菩薩屬^ス无^ク答^ト也謂
 17 總標^ト与^ト別名^ト違^ル処^ニ答^ト畢^ス〔文〕
 18 此等聲聞多是外道事
 19 問千二百五十人^ハ皆外道也若爾^ハ可^ク云^フ
 〆二二ウ〆
 01 皆是外道^ト也何云多^ト 歟答^ハ是總標^ル別名^ヲ相
 02 合^テ答^ト也 又問曰未審等事
 03 問此句^ハ上何文^ノ起^リ歟 答常隨世尊不
 04 相捨離^ノ之文^ノ起^リ問其故^ト也
 05 我曹者千二百五十人也 蒙潤者頭一
 06 果^ト也 衆所知識事
 07 問今經^ノ之聲聞衆^ノ下^ニ无^ク此文^ト如何答^シ此經^ニ無^キ
 08 訳者略^レ也可有^ク一 釈^ト也無^キ雜衆^ト又^レ訳者^ノ之略^ト也
 09 祇舍^ノ之流通分^ノ拳^ケ天龍^ヲ可^ク思^フ之^ノ无量^ト
 10 寿經^ニ康棕鎧略雜衆^ト也然^ル同本異訳^ト
 11 經^ニ多^ク拳^ケ雜衆^ト者^ノ 私云今^ニ釈^ル知識^ヲ内^ニ
 12 外配^ニ釈^ル定^ル判^ル可^ク思^フ是一^ニ往^ル之配^ト当^ル也
 13 唯^ニ釈^ル法^ノ釈^ル也例^ハ如^シ善哉^ト配^ル五分^ト或^ハ善

- 14 哉々々者悉擲重ナルヲトルカ云也ト積カ
- 13 菩薩衆七事 問第三第四第五之
- 12 文意如何答准余經ニ「釈出也故次下付ニ」
- 11 大經菩薩歎德之文ヲ又第六之標德重ハ
- 10 指菩薩言ヲ也 天台疏云菩薩德中有四第一ニハ
- 09 明位ヲ第二ス列數ス三萬ナリ二千ナリ第三標名ヲ大殊ナリ
- 08 〔三才〕
- 07 第四結為上首ト「已上」此義有難一
- 06 問下引就大經之文ニ配標位等ヲ樣如何
- 05 答故師キシ從行權方便ト上歎ヲ菩薩界之功德ト
- 04 云ヘリ是當標位ニ入仏藏之下ヲ積セリ勝進之功德ト
- 03 是當標位可シ亘ニ上下ト
- 02 問【妙樂】天台之師位ト與今師之標位ト同異如何答
- 01 天台三乘位之中菩薩位ト云也故菩薩之文配標位ニ今家於菩薩之中ニ論其位ト是異也
- 00 分配文殊高德之位事
- 09 問法王子云高位ト歎ト若爾者十住之中第八住ヲ
- 08 名タリ法王子位ト非高位ニ如何答法門之名目隨義ニ
- 07 不同也今法王子者可非第八住ニ等覺之後

- 13 心云法王子ト歎ト問有何証歎答□手
- 12 經云歎菩薩之德ト皆是勸頂之大法□子也「已上」
- 11 七者總結事 問天台ハ「積結為上首ト」
- 10 今家ニ積ト七者總結ト而為上首ヲ三萬ニ二千ト
- 09 之總結ト積事不明也唯リ獨結ル文殊ト也非ス三
- 08 萬二千之總結ニハ如何 答文殊云ハ上首ト其餘ハ
- 07 伴聞ト故屬總結ニ歎ト
- 06 上來雖有二衆不同等事ト
- 05 〔三ウ〕
- 04 問化前序ニハ有四文ニ故標句ニハ云即有其□正ニハ
- 03 一時ト住ト處ト徒衆四重ヲ積セリ標ハ順ス經ニ至今ト
- 02 結文ニ何捨タル先三歎ヲ答ク且テ奉テ近ス總結スル也
- 01 例如ハ玄義之總結ト有七門ト玄義ト舉テ第六ト
- 00 經論相違之段ヲ總結スル
- 09 有三虛科ト虛科ハ云名目有積論之九卷ニ也
- 08 荷負事 天台云置ク肩ニ云荷ト置背ヲ云負ト「已上」
- 07 已上化前序畢 欣淨緣ト也
- 06 欣淨緣事 先來之四緣ハ機ハ可テ発ス之相明也顯

- 11 行示觀之両縁、仏開悟也、但欣淨縁之中、光
- 12 台現國、雖當、仏開悟、唯積所求、不知去行、
- 13 故又致、思惟正受之二請、皆機、欣淨也
- 14 即有其八事、定散料簡門、与通別之五門、
- 15 今八段「ニスルハ」開合之異也、今一二三之文段、彼
- 16 一之通所求也、今第六七彼第四之別所求也
- 17 彼通義之五門文処、故為五門、今從文積
- 18 義「ナルカ」故文段委立也、第一文段事
- 19 問当縁、是欣淨也、縁苦之義、不可載、恐和尚之
- 20 科文、有疑、并提内心、有疑、厭先、欣後「スヘシ」
- 21 如何答、厭苦之文、雖有、欣淨之中、厭苦之内
- 〆四才〆
- 01 心欣淨之先、有也、值苦、見、世尊、一之時、恨、
- 02 当、満言、不及也、ヤ、久有実志、欣淨立、之時、先
- 03 思、厭苦之心、言、出也
- 04 厭苦、從狭、出寛、謂厭、闍世、厭娑婆、積云、闍王、
- 05 既是親生之子也、上於、父母、起殺心、是何況、ヤ
- 06 疎人、不相、害、此故、夫人、不簡親疎、総皆頓捨

- 〆云〆々〆
- 07 欣淨、從寛、出狭、謂始、五之淨土、欣後、別極樂
- 08 欣故也、通請所求等事
- 09 問通別之意如何、答、通者、欣十方之淨土、故
- 10 云通、也、今通之言、經当、広之字、別者、
- 11 局、別、舉、閻浮、云、別、也、総、并、提、厭苦
- 12 有三重、始、厭、二人、次、厭、南部、後、厭、娑婆、思之
- 13 此聞、仏說、淨土、无生事、問、此聞、仏說者、指
- 14 何、仏說、歟、答、是有、二義、一、已說、經指、也、意、夫
- 15 人、仏、檀那、聞、論、經、故、今、值、苦、欣、昔、聞、積也
- 16 一云、未說、觀、經、指、也、意、大聖、超、機、待、請、以、可、說
- 17 理、有、故、請、淨土、可、說、給、知、我、当、往、生、之、願
- 18 起也、幻惑者、煩惱也、衆生、依、報、起、事
- 19 報者、業成也、衆生、国土、共、雖、業成也、不、共、業成
- 20 依、俱、之、業、我、不、受、果、從、衆生、之、業、引、衆生、之、果
- 21 是、正、報也、故、衆生、云、正、報、也、国土、不、作、業、无、正、報
- 22 之、義、但、衆生、之、共、業、之、正、報、之、依、身、置、為、所、成
- 〆四ウ〆
- 01 云、依、報、綺、語、之、酬、報、雜、々、小、草、生、也、嗔、恚、者

- 02 口業也報^{ニハ}ウ^ラ木生也
- 03 私云地獄等事約^レ受苦之輕重^ニ 餓鬼^ハ、重約^レ根之
- 04 利鈍^ニ畜生重也俱含意^{ニテハ} 地獄傍生鬼^ト云故
- 05 鬼^ハ、重今^ノ經等意^{ニテハ} 地獄餓鬼畜生^ト云故
- 06 畜生重也^ハ 鬼畜有^{ニルナリ} 兩類^ニ
- 07 三苦聚者地獄餓鬼畜生也 盈滿事万徳
- 08 之南閻浮提皆有地獄^ニ 故云盈滿也善定猛利^{ナル}
- 09 故^{ニハ} 諸仏出世之縁惡^ニ、心之猛利^{ナル} 故^{ニハ} 有地獄^{ニハ} 也余
- 10 之三州善惡之^ニ 心共^ニ 不名利^{ナラ} 故无^{ニク} 仏出世^モ 又
- 11 无地獄^ニ 也 經云業能莊嚴^ニ 等者大乘顯識經^ニ 二^ニ 口也
- 12 三品惡果最重事 智論^{ニハ} 依^ニ 三品之惡業^ニ
- 13 有三惡之報^ニ 云^ニ 是十惡有上中下^ニ 有三惡之報
- 14 是通用也別慳貪^ヲ 為餓鬼之業^ト 等別因也
- 15 俱舍云一業引一生多業^ニ 圓滿^ニ 已上
- 16 龍興意云煩惱无生謂從今日^ニ 後不起煩惱^ニ 也果報无
- 17 生 謂從今日後又不得果報^ヲ 也此无生俱解脫^ニ 之羅
- 18 漢得也 惠解脫俱解脫^ニ 共果報无生也
- 19 識体无生謂十廻向也 余^ト、愆者指我宿何罪^ト 也

- 20 通請去行事 問^ニ 提去行之請何限定^ニ 一^ニ 歟
- 21 答云經积无文^ニ 但不可出^シ 二意^ヲ 一散善微劣^ノ
- 22 難生淨土^ニ 二夫人当定機^{ナルカ} 故也
- 〔二五才〕
- 01 积論四云大円鏡智分明現^ニ 前弱力恭相根^ノ
- 02 本无明无所有^ニ 一云々 仏智輝光之処^ニ 引歟
- 03 如來意密事 問意密者何^{ナルソ} 義歟
- 04 答唯唯仏一人知^{メシテ} 他人不知^ク 一仏意云意密^ト 也
- 05 問不說^ニ 現^ニ 有何意密^カ 一歟答云聞對^ニ 不聞^ニ 明^{ナラトモ}
- 06 對^{スレハ} 見^ニ 猶疑識疑機^ハ 一土不可有^ニ 此故^ニ
- 07 見^ク 土其中令^ニ 禎^ハ 極樂^ヲ 思食有意密^ノ 也
- 08 如來說教有聖道淨土^ニ 之二門^ニ 其中聖道門^{ニハ}
- 09 從花嚴阿含之始^ニ 說^テ 之菩薩声聞得^{レトモ} 得益^ヲ 三
- 10 学无分之不機^ノ 不得其益^ヲ 徒勝廻^ニ 還^{ナムトス}
- 11 仏深重之大照此機^ヲ 哀処適^ニ 于提致請欣^カ
- 12 淨土^ニ 故々開顯^{サン} 淨土門^ヲ 思食^ス 以淨欣^ヲ 攬^カ 三
- 13 千界機^ヲ 滅後五濁機^ヲ 見^ニ 其一類可撰^ト
- 14 受^ス 照夫人撰^ニ 說^{カント} 思食^{メセル} 意密也
- 15 難云仏之慈悲平等也何狹重苦化^ヲ 為本意^ト

16 云歟 答仏慈悲平等 重苦化 本意
 17 義分明也 欲比極樂等事
 18 問第六文段皆有光明也何第七文段之意置
 19 積結歟 答是積雖字歟雖者不尽言也
 20 何雖之字有我今衆生之意故消一也
 〇五ウ〇
 01 難云此文有雖之字一文段未畢若爾者我今衆生之
 02 下第六之文段スヘシ何開為第七歟答如難取一
 03 文段意可 有為分別知通別之土六七別立也
 04 雖之字不 尽見我今之下モ一段スヘキ意有下
 05 文々段結歸也
 06 故云我今衆生安樂國也事 問經 依正共
 07 今何限依報結此歟 答言略也今不始 処
 08 々之積皆有此例 問曰十方等事
 09 問此句有疑 并提之往生土請時現 処土 光
 10 台現國無疑 化他之土也而問約自行之土 難歟
 11 不相違 歟平等云此問同性經之一種之報土隨
 12 願經之十方諸仏実无差別之文 起也
 13 今云縱經有文有難 可難 經也況同性經大分

14 別淨土許也有 微細之勝劣不説之隨願經
 15 或約 自証平等或往生无 別説 難定事也至
 16 今積分明自証功徳一 以化他之土无 差別
 17 難尚難思事也可答之撰問從外起
 18 云不分別自行化他之仏之功徳一 淨土不 可有
 19 優劣難益得也例如禁父縁父王請 八戒
 20 如來之戒法无量也何父王請八不請余 戒外戒
 21 也彼 八戒功能答 許也
 〇六オ〇
 01 答曰仏是法王等事 問仏是法者積迦歟
 02 諸仏歟答可通積迦諸仏也從仏是 至所知積
 03 迦及十方仏可通也隱顯隨機望差存化益者
 04 所現之仏土之教主相或可之 下積迦之因現 相也
 05 望存化益指本質之淨土 下指影現之淨土也
 06 難云今積迦所現之土 優劣也何本質 問答 歟
 07 答見影像比知 本質故也何況 并提同
 08 本質之淨土故本質影像共可 明問答也
 09 我今衆生ミタ事 問夫人光台現國之時
 10 可見 依正共 歟見云 当文現 仏國云現 正報不

- 11 云「得益分得見極樂等說」屬光台積見
 - 12 ミタ等二積セリ第七觀ト々々ト之文ハ之ニ積セリ序臨淨国
 - 13 喜歡等之文此等之經文積不見正報聞ハ若不見ニ
 - 14 云、見土ト之時何不見正報歟故ト提見土ト撰言ハ
 - 15 舉タリ依正共ニ加之ニ禁父緣之ニ積セリ——土撰書——光遍為台
 - 16 影現靈儀靈儀之言ハ之ニ屬セリ正報ニ如何
 - 17 答經文現国ニ云不說現正受之ニ屬セリ如何
 - 18 偏之難ニ是判現依ニ不現正ニ事為ト蹟ト我広説
 - 19 无優惱処請答故也但至我今樂生等之
 - 20 文ニ此時夫人縱見ト不可知極樂況不見ニアミ
 - 21 タヲヤ今文經後序之意也至影現靈儀之積ニ
- 〈二六ウ〉
- 01 依報ヲ云ハ靈儀ト有何妨シ但見依ト可ト見正ニ至難
 - 02 優婆塞戒也縱一処也ト但現給見ト現給ト
 - 03 不可見ニ也法花記ニ放光瑞ニ云ハ大術ハ在於世尊ニ
 - 04 見者非其境界ニ然今積セシムル意本ハ為ナリ証ト同ト所放光
 - 05 明為ハ成ニ一ニ實ト「已上」光台之四土事
 - 06 問光中之四土之中可撰ス極樂ニ歟答【元照】大智律師ハ

- 07 不撰ト積セリ如湛源淨等撰ハ四土撰ト云付有二義一
- 08 淨土私記云純是蓮花者是西方蓮花輪
- 09 世界也ト仏名アミタト「已上」【源清積】頭要記云大本第
- 10 卅一願云我成仏国土光明徹照諸仏世界如クナラハ
- 11 鏡現ニ像カタチヲ即当玻瓈鏡ニ也「已上」淨業記【如湛積】云
- 12 七宝合成是安養相「已上」約ル文ニ極樂七宝淨土也
- 13 約ル義ニ所撰フ淨土可拳ニ始ニ此師得ル理約
- 14 時引勢至觀之七宝国土ニ時動搖之文ニ違
- 15 積ナル也ト大智疏云七宝成者言其尊貴ト純
- 16 蓮花者言其潔淨ト如天宮者言其快
- 17 樂ヲ頗梨鏡者言ナリ其明瑩ト若論ケイヲ諸土ト莊嚴
- 18 極衆經文從隨簡カン各舉ノ一相ヲ欲ナリ彰ハ極衆具サニ
- 19 兼タル諸美ヲ令テ提見ニ即示放光現土之益ト「已上」
- 20 增上緣因者不取正覺ト也四十八願ト有不取正
- 21 覺ニ是增上緣因也意余ハ願中无ニ此言一

二七〇

- 01 故对今願不取正覺云鄭重 積増上
- 02 之勝因也 ミタ本国四十八願事
- 03 問并提光台現国之時四十八願所成之極樂知歟
- 04 答不爾 難云若爾者今釈如何答云極樂
- 05 名以正宗之意一釈也今釈主不釈一知宗一例如
- 06 天台釈法花一給從序品以因縁約教本迹
- 07 觀心之四種之釈々々 経文サレハトテ時之衆從
- 08 序品知本迹云又迹門十四品立本迹一同事也
- 09 或体用之本迹云或下文顯已通得引用
- 10 從本見皆有已今之本迹也其様有序
- 11 分一極樂 從正宗一見法藏比丘願力所成土
- 12 釈一アレ并提之知何釈タルヲ不 知一釈歟
- 13 問不知何釈歟 答釈致使如来密遣夫人別選之
- 14 釈也如来四十八願土照夫人ソコヲ隠只
- 15 精花 令選一給是云密一也意仏之密意并提不知一
- 16 云密一也若密付一并提一如來別遣夫人密選
- 17 可釈一 因行果報事
- 18 勝因者五劫思惟之四十八願勝行者兆載永劫之

二七ウ

- 19 六度万行勝果者十地之分果勝報者妙覺
- 20 上報身 勝報極果之前後事実一同
- 21 時一説必次第勝報置上極樂置下一也
- 01 四十八願同時成也撰法身之願成 成勝報一撰
- 02 浄土之願成 成極樂一故无前後也
- 03 悲化智恵之前後事 実同時也如先説必
- 04 次第也 智恵者照衆生受苦一智可座衆生一
- 05 方便之智也 悲化者正拔一苦一思心也先見苦
- 06 拔一智先悲後也拔一苦一思廻 方便悲先一後也
- 07 カク云一往也実一非智同因也世界悉旦之日悲
- 08 智前後 仏之自説一同時也智者後得智也
- 09 甘露事 甘露者不死藥也譬常住之涅槃一極
- 10 樂甘露門 云広開甘露一也 法潤事
- 11 如来因行果報三界之火宅増 故云法潤一也
- 12 有此因縁事 是指先来之釈一也力、ル道理今
- 13 経令寄極樂一也 四種莊嚴事 是云通依
- 14 報別依報通正報別正報一也 励已注心者精
- 15 勇猛 云也一此聞中絶也一有撰四恵者生得恵

16 聞思思惠修惠也生得惠者俱舍云生便得故「已上」
婆娑本

17 婆娑云若於三藏十二分教受持誦誦究竟通別

18 是生得惠「已上」俱舍約始「婆娑約終」也生得之惠、

19 有淺深故也 聞惠者聞所成惠也聞即非「惠」

20 思惠者思惟所得之惠也謂依聞惠思惟所

21 得「惠也 已上三惠欲界也第四之修惠実□也上界

也

22 正相 聞惠縁 文四惠訓文義 修惠結義

〈二八才〉

01 問今思惟聞思位也云、聞思散心也思惟可

02 散心「返諸師之義當今家何独釈散善給歎

03 答云聞思散心「修定之人先方便所得」之故

04 可属定善「善導正定」不給釈定先方便云、

05 意顯也但散善「有思惟」云事「四惠中、

06 思惠「非相似之思惟也 法花勸発品云其人若

07 座思惟此経「已上」 釈云散心誦法花不入禪三昧

08 坐立行一心念法花聞思「已上」 問思惟正受之依
地

09 如何 答思惟欲界極樂聞思之位也修惠通
八□「謂四禪四空也 問今正受言何地以

11 為依地、歟 答【初禪近分之修因也】未至中間四根
本定通へキ也

12 但多分未至地可為「依地」也定始「故也

13 定有美浄无漏之三樂至「美禪者得禪樂也定」當

14 地着ナス也不得支林之莊嚴「浄禪者当地不為

15 着一具支林断惑」也 已上美与浄二有漏也無漏禪

16 者客人宅住「如无漏非 界繫」而定地依

17 地「発」无漏定也総是有十九□八根本八近分

18 中間禪无想定滅尽定也此中未至中間四根本

19 ト三无色之根本定此九地通有漏无漏「除初

20 禪之近分「七近分与悲想定」无想定滅尽定、

21 十唯有漏定也 問十三觀之定有漏定歟

22 无漏定歟 答有漏定也凡夫之定ナルカ故聖人

〈二八ウ〉

01 有漏定入 有「凡夫之无漏定入事无也

02 問所觀之境天□者也能觀之定何有漏「歟誰知

03 无漏定有「又首楞八定」へシ如何 答以有漏心

04 解^ル无漏之境^ヲ也^ニ行成之位^ニ見^ル无漏之境^ヲ事^ハ依願^ニ
 力^ニ也^ニ又^ニ首楞嚴^ニ定者^住真如^ニ定也^ニ觀^ル有相之土^ニ
 05 者^ニ可用[□]定^ヲ十三⁽²⁰⁾觀^ニ之^依地^ニ群疑論^ヲ可見^ル之^ニ
 06 散善^ヲ顯行^ニ緣^ハ五^ニ色^ノ之^事俱^ニ舍^唯識^ニ
 07 說^テ四^ヲ色^ヲ黃^ヲ色^ヲ撰^テ青^ヲ色^ヲ自^レ余^ノ之^宗立^テ五^ヲ色^ヲ也^ニ
 08 散善^ヲ顯行^ニ緣^ハ事^ニ問^テ散善^ヲ顯行^ニ緣^者点^并
 09 義^ハ如^ク何^ク答^テ散善^ヲ顯行^ニ讀^テ散善^ヲ顯行^ニ讀^テ
 10 上^ニ說^テ散善^ヲ顯行^ニ有^レ別^テ散善^ヲ顯行^ニ不^レ可^ク云^ハ難^ス
 11 剩^ハ就^テ此^ノ難^ニ一^ニ轉^シ計^シ顯行^者通^テ定^散云^義存[□]
 12 有人^ハ僻^ニ義^也当^レ緣^之始^ニ許^説定^善欣^淨緣^欣
 13 許^説許^也非^{顯行}之^体思^令未^来之^下顯行^ノ
 14 体^ニ有^サレ^ハ積^ニ当^レ修^三福^者總^標行^門「已^上」可^ク
 15 思^之
 16 但^シ散善^ヲ顯行^共三^福散善^即顯行^也何^{散善}
 17 顯行^ニ云^ヤ云^難云^是總^別異^也意^{散善}之^中
 18 顯^三福^之行^ニ云^事也^{散善}總^顯行^別也^ニ
 19 有^云散善^広聖^道淨^土人^天之^業通^ス故^{顯行}
 20 狭^限淨^土之^行故^々寬^{散善}之^中別^顯
 21 淨^土行^ニ故^{散善}顯行^ニ云^也此^義何^有就^次

22 □□文章^違云^難有^是不^知策^体也^申取^ル
 〇九〇
 01 有^文章^也文^集相^備位^ニ云^有善^云夕^々
 02 口^光不^照乃^至王^頂事^問夫^人頂^可照^微咲^之
 03 本^意夫^人之^請許^給故^何夫^人之^感應^及父^ノ
 04 王^歟答^仏知^食夫^人之^意故^王又^自本^婦
 05 仏^心有^故因^縁和^合先^益父^王也^父王^心
 06 為^縁并^提之^請為^因故^因縁^和合^也
 07 問^父王^請目^連夫^人請^阿難^何并^提之^レ
 08 請^如來^入給^歟答^王受^戒命^絶利^益狭^ノ
 09 夫^人欣^淨土^利益^寬故^仏自^來給^歟
 10 隨^身出^所必^皆有^益事^問何^无天^道歟^ハ
 11 答^可略^或合^人歟^九品^義足^下地^獄脛^畜生^ノ
 12 股^鬼道^臍人^道胸^天道^口聲^聞眉^間縁^覺
 13 頂^善薩^此等^智論^有異^本故^其文^異歟^ハ
 14 心^眼得^開事^問父^王見^光照^時眼^見歟^心
 15 眼^歟答^経既^云心^眼无^障非^眼見^歟難^云心^ノ
 16 眼^之見^也云^仏微^咲之^口放^五色^光給^是
 17 色^光也^可眼^見若^爾云^経云^心眼^无障^遙見^ノ

- 18 世尊^ト如何答見光^ル事^ハ眼見^{ナレトモ} 依見光^ル之功德
- 17 三昧開発^ニ之^ニ 心眼開深宮之内^ニ在世尊^ヲ奉^シ
- 16 見^ニ事^カ心眼^ニ有^テ也 大智律師云有五色光從
- 15 口^ニ而出光照^{テリ} 王頂^ニ仏力加被^メ令^メ増^セ道果^ヲ蒙^リ
- 〆九ウ
- 01 光^ヲ見^テ仏^ヲ深悟^ク无常^ヲ発智^ヲ断惑^ヲ遂証^ニ
- 02 三果^ニ「已上」 問^ク父王此経聞可^ト云歟
- 03 答道理可聞^ハ此経^ニ也 難^ニ云若聞^ハ云^ハ経之中不
- 04 説^ニ況得^ヤ益分^ニ之中^ニ举^メ夫人侍女^ニ之得^ル益^ヲ
- 05 及^テ积^ク之^ニ諸天^ニ之益^ヲ 説^ク云^ハ不^レ孝^ニ父王之益^ヲ
- 06 知^ヌ聞^ク経得^ル益^ニ之人^ニ非^ズ云事若依^テ之^ニ爾^レ云者
- 07 顕^レ行^ノ縁^ノ之^ニ始^ニ見^ル 仏^ニ之後^ニ得^{タリ} 果証^ヲ若爾者一會^ニ之
- 08 終^ニ或不^レ見^ル聞^ク之^ニ歟 答^ル見^ル微^ル咲^ク之光^ヲ瑞^キ
- 09 聞^ク仏説^ク機^也尤^ニ可^ク聞^ク一^ニ経^ヲ也但不^レ孝^ニ得^ル益^分
- 10 事^ニ不^レ待^テ具縛^ニ命^終歟 元照疏云抛^ハ此^ニ頻
- 11 婆^シ見^テ仏^ヲ得^テ果^ヲ應^ニ与^テ夫人^ト同^ク聞^ク觀^ク法^ヲ後^ニ結
- 12 益^中但^レ叙^{セリ} 并^ニ提^ト五百^ノ侍女^ト乃^チ知^ル頻^婆証^ヲ
- 13 果^ニ即^チ歸^ス滅^ニ「矣」 又^チ云^ク父王不^レ聞^ク此^ニ経^ヲ歟

- 14 但^シ至^テ 同^ク聞^ク觀^ク法^ヲ之^ニ积^ニ定^有之^ニ积^歟
- 15 父王聞^キ觀^ク経^ヲ不^レ聞^ク 難^ニ定^ニ事^也王^ノ之^ニ命^延難^知故^ニ
- 16 仏化儀難^知故^也王^ノ之^ニ命^延縱^短 始^ニ可^ク聞^ク也
- 17 但^レ仏^ノ之^ニ化^儀難^知也^ニ元照^ハ积^ハ一^ニ定^ニ數^ヲ始^ニ可^ク聞^ク也
- 18 思^ヘ积^ル之^ニ所^ヲ无^キ結^ニ益^ニ會^ニ 応^ニ聞^ク觀^ク法^ヲ之^ニ道^理
- 19 非^ス积^ハ无^キ也^ニ聞^ク不^レ聞^ク定^スカ^ケシ^テ定^カカ^ラフ^ト
- 20 供^テ経^文不^レ聞^ク可^ク云^ハ一^ニ往^也
- 21 障^隔雖^レ多^ク者^カ墻^壁等^也
- 〆二〇オ
- 01 超^レ証^ニ第三^ノ果^ノ事 問^ク超^レ証^者次^ニ第^ニ証^ニ超^レ越^証
- 02 之中^ニ超^レ越^証云^ハ歟^ト又^チ阿^ノ那^ノ含^者何^ノ位^歟
- 03 答^ル阿^ノ那^ノ含^者今^ハ師^{第三}之^ニ果^ヲ积^給 天^台等^同之^ニ
- 04 龍^興有^ル人^義出^有三^義 一^ニ阿^ノ那^ノ含^向 非^果
- 05 娑^婆影^堅王^目連^多聞^空之^ニ説^ク微^妙之^ニ食^ヲ
- 06 聞^テ捨^テ命^ニ生^彼天^為太^名最^勝尊^造
- 07 藏^功徳^経生^天云^ハ明^知非^果二^生天^之後
- 08 作^ス第三^ノ果^ト二^生合^説故^名阿^ノ那^ノ含^三阿^ノ
- 09 含^者阿^ノ之^ニ字^筆之^ニ誤^也可^ク云^ハ那^ノ含^如涅^槃
- 10 経^説受^身名^那含^不受^身名^阿那^含

11 問師子月本生經云父王成阿那含云如何答一
 有誤多誤何疑 仏地論云諸經之中二向名
 12 為含无証只是經教之異說也今經不說三之
 13 欲界故不可難那含果娑婆不可証那
 14 含果欲界生不可難
 15 又須達与優婆塞多先生第三果之人也
 16 皆生欲界營非難許斷請受生小乘
 17 不還果生欲界者大乘斷請受生許故也
 18 問超証者父王超証之人云歟 答「云々」 難云
 19 超彼
 20 証者凡地以有漏智欲界之六品九品之思
 21 斷後入見道之時六品斷者超初果証第
 22 二果九品斷塵超初二果証第三果一名
 〇二〇ウ
 01 而父王本初果之聖人也何有超越之義若
 02 爾云經云自然增進成阿那含釈云超証第
 03 三果之可云超越証如何答俱舍娑婆如難
 04 超初果超初二果超立不許聖後超
 05 天台之止觀如立四種之超一「宗要文集可見」

06 弘決云如神通等「已上」今釈可同之歟然大師
 所用
 07 豈順旧婆娑ヨク可謀旧婆娑也
 08 又有人実止観本断超超思也後三速
 09 疾辺且名非実超為顯此意妙業釈如
 10 神通人等給 離欲念之者一
 11 果超全離欲念之者為第三果超也
 12 超果一生得果歟初三果超必超三成果
 13 □□云離者九品之中断欲界六品未
 14 断欲界之三品故云□也全離者九品之
 15 越皆断故云主也
 16 亦非是无時仏語也事 問從爾時世尊至
 17 弁提希文上全无仏語以此上総来定説釈如何
 18 答有云顯无定説密有定説歟光台現国密
 19 開語即当仏語故也 有云諸法通六塵
 20 光台現国色塵之説法故云仏語歟
 21 今云光台之密悟无文理共縦云密悟
 22 光明不可有仏語又離六塵之説法既仏語

〇二オ

- 01 限口業之語声何処余密之説法云仏語
- 02 歎會之可有二義一云有仏語者義推之釈也
- 03 如来現深宮給時夫人号泣申已思如来此時
- 04 定可有慰喻同体也无文事可経家之略非
- 05 出離之用故也世尊依之義推有仏性云也
- 06 例如上如来世尊有昔之時等之文二釈作中第
- 07 二之釈云父王在禁已来救蒙世尊遣阿難
- 08 来慰問我釈一義云從祇舎之伝説阿
- 09 之語故指阿難語云仏語歎経云聞仏所説皆
- 10 大歡喜礼仏而退已上是阿難説云仏語也
- 11 下四印定即名仏説之意也難云若爾者禁
- 12 父縁已後皆可云仏説何厭苦之半從現仏
- 13 有仏語无仏語云釈作歎况印定仏
- 14 説説可印定也上无仏説何印定云歎
- 15 答禁父已後可云仏説先約王宮云仏現
- 16 給无仏語云縁起下限有仏語釈也
- 17 会次難縦事儀式也叶仏意説之即可云
- 18 仏語也答爾時世尊告乎提已下事

〇二ウ

- 19 問上牒此文畢何重牒歎答上為申当文之
- 20 大意举之今為釈有是文段重举也況今告
- 21 命許説之名行立今文是其外也
- 22 去此不遠之今釈事第一釈同淨影彼疏云
- 01 十万億説名為不遠已上問十万億利大遠何
- 02 不遠答遠近所望不同へシ世界无尽也
- 03 其中十万億是非遠歎元照云仏眼観
- 04 故如楞嚴説天眼観大千界如観掌菓
- 05 况仏眼乎譬如登高観下一目万里已上
- 06 智覚等師約理釈
- 07 第二釈大師御釈也是約第九門之去時之遲疾
- 08 釈給也第三釈可見極樂之機近見之故也
- 09 是約定機之行成釈之是天台釈同事彼疏云
- 10 以仏力故欲見即見又光中現土顯於他力一念
- 11 能縁言不遠也已上又元照去此不遠
- 12 作三釈第一如引上次文云一心念速故心神
- 13 無尋遐方異域拳念即至所謂心念疾

- 14 於風^{ヨリモ}也^ニ三^ニ仏力^ヲ損^ノ故^ニ雖^タ未^ダ得^テ通^ヲ乘^{ナリ} 仏神力^ニ「已上」
 - 15 此第三之^ノ積^ニ今^ノ第二^ニ積^ニ同^ニ歟^ニ 問^ノ今^ノ三^ニ積^ニ可有^ニ
 - 16 傍^ニ正^ニ歟^ニ答^ニ可有^ニ也^ニ 尋^ニ云^ニ若^ク有^ラ傍^ニ正^ニ何^カ積^カ
 - 17 正^トスヘキ^ニ歟^ニ 答^セ約^セ當^ハ文^ノ之^ニ正^ニ意^ニ 第三^ニ積^ニ正^ニ歟^ニ約^セ
 - 18 一^ニ經^ノ之本^ニ意^ニ 第二^ニ之^ニ積^ニ正^ニ也^ニ
 - 19 攀^ク緣^ノ事^ヲ 就^テ心^ノ之^ニ所^ニ緣^ノ之^ニ境^ニ散^ス也^ニ 緣^ハ所^ニ
 - 20 緣^ノ之^ニ六^ニ境^ニ攀^ツ緣^ノ者^ノ意^ヲ於^テ境^ニ分^ニ別^ス 其^ノ境^ヲ義^也
 - 21 安心^ニ住^ニ行^ニ事^ヲ 繫^テ念^ヲ安心^ニ行^ニ觀^ニ住^ニ行^ニ歟^ニ
 - 22 諦^シ觀^シ彼^ノ國^ノ淨^ニ業^ニ成^ニ者^ノ事^ヲ
- △二一才△
- 01 問^ニ点^ニ並^ニ義^ニ如何^ニ 答^ラ若^ク依^テ淨^ニ影^ニ諦^シ彼^ノ國^ノ
 - 02 淨^ニ業^ニ成^ニ者^ノ可^ク觀^ニ可^ク讀^ニ也^ニ 彼^ノ國^ノ先^ニ六^ニ觀^ニ成^ニ
 - 03 業^ニ成^ニ者^ノ後^ニ十^ニ觀^ニ觀^ニ故^也 若^ク依^テ善^ニ道^ニ諦^シ彼^ノ國^ノ
 - 04 觀^ス淨^ニ業^ニ成^ニ者^ノ也^ニ 可^ク讀^ニ也^ニ 若^ク依^テ此^ノ法^ヲ文^ヲ爲^シ淨^ニ業^ニ
 - 05 成^ト也^ニ 積^ル故^也 淨^ニ影^ニ所^ニ觀^ニ之^ニ境^ニ淨^ニ業^ニ成^ニ者^ノ就^テ今^ノ師^ハ
 - 06 能^ク觀^ニ之^ニ行^ニ者^ノ付^ル【淨】業^ニ成^ニ者^ノ也^ニ 若^ク依^テ此^ノ法^ヲ者^ノ指^シ諦^シ觀^シ
 - 07 彼^ノ國^ノ也^ニ 若^ク依^テ元^ニ照^ニ彼^ノ國^ノ淨^ニ業^ニ成^ニ者^ノ觀^シ
 - 08 可^ク讀^ニ也^ニ 釈^ス云^ニ淨^ニ業^ニ成^ニ者^ノ總^テ目^ヲ彼^ノ土^ニ依^テ正^ニ報^ニ積^ル故^也
 - 09 問^ノ者^ノ之^ニ字^ニ生^ニ類^ニ依^テ初^ニ之^ニ字^ニ草^ノ木^ノ万^ノ物^ノ限^ニ今^ノ云^ニ者^ノ

- 10 何^{□□}報^ニ歟^ニ 答^ラ外^ニ典^ニ如^シ難^ノ内^ニ典^ニ少^ク々^ク文^ノ字^ノツ
 - 11 カイ^ノカ^ハル^也 正^ニ教^ニ□物^ニ云^ニ物^ノ有^ラ情^ニ者^ノ之^ニ
 - 12 字^ヲ又^ト且^ト依^テ正^ニ常^ニ習^ニ也^ニ非^ニ難^ニ
 - ※ ○此^ニ有^ラヘキ^ニ歟^ニ
 - 13 機^ノ緣^ノ未^ダ具^ス等^ノ事^ヲ 問^ニ廣^ク說^シ衆^ノ譬^ノ者^ノ定^ニ善^ノ之^ニ許^ス
 - 14 說^ニ限^ニ歟^ニ且^ト定^ニ散^ニ歟^ニ若^ク且^ト定^ニ散^ニ云^ハ并^ニ提^テ之^ニ請^ニ限^リ
 - 15 定^ニ善^ノ許^ス說^ス其^ノ請^ヲ文^ヲ也^何通^セ散^ス以^テ此^ノ上^ニ釈^ス答^ラ前^ニ
 - 16 夫^ノ人^ノ別^ニ選^ニ所^ニ求^ニ之^ニ行^ト云^ハ若^ク限^ニ定^ニ云^ハ今^ノ釈^ス見^ル
 - 17 通^ニ散^ニ如何^ニ 答^ラ王^ノ許^ス說^シ限^ニ定^ニ善^ノ也^但機^ノ緣^ノ未^ダ
 - 18 具^ス等^ノ之^ニ文^ヲ至^テ廣^ク說^シ衆^ノ譬^ノ許^ス說^シ畢^シ不^レ說^シ其^ノ定^ニ善^ノ
 - 19 亦^レ令^テ未^ダ來^ニ世^ト說^シ散^ニ善^ノ自^ラ開^ス旨^ヲ申^ス也^不可^ク
 - 20 偏^ニ說^シ定^ニ門^ニ者^ノ許^ス說^シ不^レ說^シ定^ニ善^ノ事^ヲ積^ル佛^ノ緣^ニ
 - 21 受^テ食^ス機^ノ者^ノ次^ニ下^ニ散^ニ善^ノ自^ラ開^ス相^ヲ申^ス也^也
 - 22 問^ニ定^ニ善^ノ名^ヲ衆^ノ譬^ノ意^ヲ如何^ニ答^ラ影^ニ云^ハ下^ニ以^テ此^ノ方^ヲ曰^ク
- △二二ウ△
- 01 水^ノ等^ノ相^ニ並^ニ以^テ此^ノ方^ヲ仏^ノ菩^ノ薩^ノ像^ノ類^ノ度^ス彼^ノ方^ニ名^ヲ爲^シ衆^ノ喻^ト
 - 【已上】
 - 02 元^ニ照^ス云^ニ極^ノ樂^ノ境^ノ界^ノ衆^ノ生^ノ未^ダ識^ラ以^テ物^ヲ比^シ擬^ス故^ト云^ハ衆^ノ
 - 03 譬^ト如^シ下^ニ云^ハ如^シ億^ノ千^ノ日^ノ其^ノ光^ノ如^シ花^ノ等^ト或^ハ可^ク可^ク三^ニ所^ニ有^ラ言^ハ

04 論通名為「譬」。「已上」問元照之第二積法譬沒乱

05 何法說屬譬說「歟」答法門之習所望不同

06 也今不論法譬「本說質之淨土為法體一顯之

07 是喻皆屬譬說「也

08 仏更觀機自開三福事

09 選択集之中就觀經一定散屬隨他「念仏屬

10 隨自「積有委論之「此經屬「隨自「就有三意也

11 一聖道之諸經為隨他「淨土之觀經為隨自「

12 玄八万四千皆蒙解脫「積衆生障重之機

13 說觀經「云積諸仏大悲於苦者之文若侍

14 女之文此等之文意也「一定善為隨他「散善為

15 隨自「今仏受觀機之文如來方便開顯三福之

16 文是也「三定散為隨他「念仏為隨自「上來雖

17 說之文是也「於「觀經之中「分別「自他「也又他

18 經為隨他「念仏為隨自「積「種々法門皆解脫

19 之積是也

20 問就淨影之積有難「十六觀之中「二八之三觀衆

21 譬云「自余之十三觀「許說「如何

22 答拳「能譬之三觀所譬之十三觀頭「故也□
△三才△

01 淨土之境不論依正「舉「依執之似觀「一切

02 之依報「撰尽「正報之似觀「一切之正報

03 撰尽「也

04 元照云「一代教中「弥陀教觀皆是「円頓一仏乘法

05 更無余途也「已上」一切衆生機有二種事

06 出離之機雖多「不出定散二機「也

07 問念仏之機是非「非定非散之機「歟「答念仏「定

08 機行「成定善「散機行「成散善「也此則息慮癡

09 惡之外善体无也「而有人念仏之機定善難成「

10 故委他力「出生死「也云此事邪見也念仏之行「隨

11 犯隨懺「積「ツヤク「无癡惡之分「スマシキ也

12 サレハ念仏「懷感通定通散「積善導三輩散善

13 積給「但常定散二善「難成「若依「念仏「

14 定機易成「散機易成「也念仏易成法「文殊

15 般若一行三昧之文是也サレハ善導云識颺神飛之

16 機向称名勸妙樂「以引重「譬「念仏定之易得「

17 事積給「散機易成「証拠「下三品之三人輕

- 18 況重罪具及勝証之時以称名^ニ化^{セリ}之^リ大師之
- 19 所判分明也可思^レ之^ニ 問只就往生之行^ニ不出
- 20 定散^ヲ歟又聖道之行^ニ不出定散^ニ歟 答聖道之
- 21 行^ニ不出定散^ヲ也^ト未見定散之外^ニ有善報^云事^ハ
- 22 真定之果海本分^{ナル}而顯教之修行^ヲ屬散善^ニ
- 23 三密之行^ヲ云^{ヘリ}定善^ト禪宗也教外別伝^{ナル}自宗
- △三三ウ△
- 01 之出離^ヲ云^ハ定善^ト可思^レ之^ニ
- 02 如來方便等事 問今方便者方便真
- 03 実之中^ノ方便歟 答不爾^ニ但善巧方便也
- 04 為散機^ノ開^{スル}散善^ニ云^ハ方便^ト也
- 05 天台立^ニ三種^ノ方便^ヲ一^ハ法用是^ハ當其機^ニ說其法^ヲ也
- 06 二能通^ニ三教^ヲ為能通^ト一^ハ実為所通^ト三秘妙方
- 07 便並待^ニ內衣珠^ヲ王頂之珠^ヲ指客作人^ニ長者子也
- 08 意從^ハ仏意^ニ見^レ三五七九等之種^ヲ皆歸^ノ一極^ニ
- 09 无^キ權^ニ云^ハ秘妙^ト也 点內衣珠者五百品^ノ心王
- 10 頂之珠者安樂行定心客作人者□解密心也
- 11 今經云^ニ方便^ト第一^ニ使方便^ト也
- 12 仏受觀機事 仏^ニ觀機^ニ三昧^ト先鑑^ニ

- 13 機根縁^ヲ說^キ應^ル法^ヲ給^フ也此觀機^ニ有重々^ニ一^ハ經々^{コト}
- 14 說利入定^ニ鑑機^ニ一^ハ法花入定論等^ノ如也^ニ
- 15 仏初成道之時^ニ三七日之間^ニ一代說思惟^ヲ給^フ
- 16 於三七日等之文^ニ是也^ト三^ハ仏昔初住真因位^ヲ叶^テ
- 17 得^ル三世了達之智^ヲ之時^ニ未來之所化^ノ之機^ヲ皆知也
- 18 是^ヲ法身地之照機^ト云^ハ也釈云^ハ自本地真因初住^ニ已上^ニ
- 19 問此觀機^ハ四智之中歟 答止^{クハ}妙觀察智^ノ之
- 20 中後得智^ヲ以^テ鑑機^也法相^ニ妙觀^ニ名說^法
- 21 斷疑之智^ト是也サレハトテ同本^ニ二智^ノ无^ニ非也
- 22 総標行門事 問総意如何 答世戒行^也
- 23 之三福^ヲ一^ニ二三別說^{スル}對三福^ト云^ハ云^ハ総標^ト也
- △二四オ△
- 01 修行之行^ト今行門^ト一也即三福也
- 02 一者孝養父母即有其四事
- 03 問此釈父惡^ニ孝養父母之中^ニ有四事^ト云^ハ似
- 04 実^ニ三福之中^ニ第三之行福^ヲ開^ニ二^ニ積^ル即有其四^ト
- 05 標也□觀上具^ニ可^ク三福^ト何^レ孝養
- 06 父母之一句^ヲ標^{スル}即有其四^ト歟 答一者孝養
- 07 父母者定略也具^ニ可^ク三福^ト也而讓^テ經^ニ且引^テ

- 08 一句令知余也次即有其四者經合之意
- 09 說三福一積開可四福旨存也於第三行
- 10 福一菩提心一誦誦勸進為二云四一也
- 11 問經合積開各意如何 答經合事共太子
- 12 法故也積開事四行各別故也
- 13 一切凡夫皆緣而生事 問上界之凡夫善父母
- 14 之外緣如何 答近六欲四州之人約釈也一切
- 15 者十分之一切也 此四生中各々復有四生等事
- 16 問四生之中又有四生一様如何 又經者如何經歟
- 17 答此事難知一經菩薩処胎經第二也彼經三云
- 18 以神通入天四生入地獄四生餓鬼四生畜生四生已上
- 19 難云此經有難一性經人情生及四鬼通胎化二地
- 20 獄及諸天中有唯化生定是有四生一歟餓
- 21 鬼有湿卵二生歟 答有云首楞嚴經胎卵
- 22 湿化之四生以地水火風之四大一成就四大云
- 23 四生一歟又云夫菩薩神通說通傍事非歟
- △二四ウ
- 01 □□經云異說今不始一 又云「有義」

- 02 又人畜各有四生二人之化生如劫初一胎生如常
- 03 卵生般遮羅王之五百之卵及世邏優婆世邏
- 04 如也湿生如頂生王畜化金翅鳥龍王中有
- 05 化生胎如牛馬等一卵如鳥等一湿虫類之中多
- 06 有角者无上□有羽翼二者无別足
- 07 又世人云枸カミテ含者胎生也枸カマスノ含
- 08 飲者卵生也 相因而生事
- 09 无父母一化生湿生不云二父母之外縁和合云相
- 10 因而生也 能生之因所生之縁事
- 11 問赤白二滯共証生之因縁何父云因母云縁一歟
- 12 答因即縁同事有父母之両字配因縁之
- 13 両字許歟 又云父白滯成骨一母赤滯
- 14 成肉一故父勝母劣也故父為因一母云縁一歟是
- 15 因親縁疎之意也 以自業識為内因等事
- 16 問上父為因一母為縁一今何父母共云縁一歟
- 17 答所望不同也各依一義一也今於一自業与父母一
- 18 作因縁一上求父母一作因縁一也故无者一

- 21 不得一匙事 問天竺^{ニハ}飲食^ニ不用^{ハシ}箸匙^{シヤイ}
- 22 如何答是分食^{ハツ}一匙也^{ニハ}飲食^ニ之時^ト非箸匙^{ニハ}
- 23 三衣事 三世諸^{ニハ}佛^ノ之^ノ解脫^ニ內境^ニ相^ニ之^ニ衣^ニ云^ハ
- △二五才△
- 01 諸^{ニハ}佛^ノ皆^テ依^テ此^ニ衣^ニ解脫^ニ生死^ヲ云^ハ也^ニ其中^{ニハ}□
- 02 以袈裟^ヲ為^ニ三摩耶^ト形^ト真言^{ニハ}屬^{セリ}釈迦^ノ之^ノ遺弟^ハ
- 03 袈裟^ヲ重^クスヘキ也
- 04 袈裟^ヲアタイ□□不承^ソ緣^ハ與^ハ父母^ニ給事^ニ
- 05 問^レ福田^ノ之高^ヲ下論^ニ凡^ハヤセ聖肥^{ハタリ}縱^セ父母^ノ恩重^ク
- 06 不可^ク過^ニ佛^{ニハ}如何^ニ答^レ如此^ノ施設^ニ隨機^ニ不定^也
- 07 法花^{ニハ}佛^ノ毀^ル供^{スル}罪^ハ輕^ク持^テ經^者毀^ル罪^ハ福^ノ重^ク說^{タリ}
- 08 其^ハ皆^ハ真^カ理^カ有^レ也^ニ行^者有^レ律^也毀^ル供^{スル}罪^ハ損^ニ益^ニ故^重
- 09 如^ハ來^ハ无^レ待^也故^{毀^ル供^{スル}罪^ハ輕^ク若^シ論^{スレバ}福^田凡^ハヤセ聖肥^{ハタリ}}
- 10 釈^{セリ}々^ノ文^ノ同^ニ之^ノ歟^ニ又^ハ佛^ノ德^高雖^テ於^レ此^ニ比^丘恩^ニ
- 11 輕^ク父母^ノ雖^シ貧^ニ於^レ此^ニ比^丘恩^ニ重^ク歟^ニ又^ハ絶^テ畜^ニ
- 12 百^倍之^ノ報^施人^ニ一^万倍^之報^云々^ノ聖^者施^果无^量也
- 13 凡^ノ之中^ニ有^レ施^果无^量俱^レ舍^云父^母病^法師^最□
- 14 身^ノ菩薩^ト設^ハ非^レ証^聖者^ニ施^果亦^レ无^量「已^上」
- 15 先^ニ教^受三^福等^事問^{ニハ}上^ニ恩^重故^可消^ニ云^ハ
- 16 下^{ニハ}三^福之^ノ力^ヲ可^ク消^ニ云^ハ相^違如何^ニ答^レ父^母消^ス可^ク有^一
- 17 二^ノ故^非相^違佛^ノ飢^相事^是示^觀現^也
- 18 成^実現^有煩^惱云^ハ法^花狀^有所^畏云^ハ皆^生示^現之^ノ相^也
- 19 佛^母摩^耶事^俱舍^九云^ハ佛^母受^胎生^ヲ給^有三^故
- 20 一^ハ為^レ令^有情^信意^迦毘^羅外^道百^歲成^大幻^出
- 21 世^スヘシ^ト記^{セリ}故^不受^ニ化^生受^胎生^ヲ也^ニ為^レ化^ニ
- 22 親^族三^為留^舍利^意如^來舍^利一^興供^養
- 23 千^反生^天後^証涅^槃之^ノ文^意也
- △二五ウ△
- 01 奉^事師^長事^問父^母之^ノ恩^ト師^長
- 02 恩^何深^歟答^書師^順伯^叔故^父母^重
- 03 師^輕佛^法父^母輕^師重^般若^經之^ノ佛^弟子^問佛^ニ
- 04 白^父母^及師^之恩^何重^歟佛^答言^在家^父母
- 05 之^ノ恩^重師^恩輕^出家^父母^之恩^輕出^師之^ノ恩^重
- 06 問^師長^者師^即長^歟答^レ師^即長^也若^為別^之
- 07 時^長者^同學^之中^長者^也在^家兄^也
- 08 善^支事^又名^善知^識是^有多^種謂^外護
- 09 送^衣食^檀越^也內^護此^有二^一同^行是^同修

- 10 業之者也。教授此師也。止觀之第四可見。
- 11 經云。一切諸衆生等事。十善戒經云。一切受生者。无不愛身命。過去來今。一切智所說。怒已。可為譬。勿殺。勿行杖。若見殺生者。如三刀刺。其心。止文。已上。涅槃經十云。一切畏。刀杖。无。
- 12 不愛壽命。怒已。可為譬。勿殺。勿行杖。已上。
- 13 慈心不殺事。問慈心不殺者。十善之始。拳。
- 14 歟。答今。積爾也。難云。三福。廣可。損諸善。
- 15 誰知。四无量之中。拳。慈无量。有以此。淨影大師。積此。中旨。給如何。答第一。世善也。故不。
- 16 可。損四无量心。十善之中。不殺勝。故別。拳之。
- 17 次。總修。十善說也。但。選。択。今。積。淨。影。之。義。書。
- 18 五戒。十善。旧。医。之。神。法。也。云。如。來。未。出。之。劫。初。
- 19 有。也。是。又。云。世。善。也。外。道。云。旧。医。一。仏。云。新。医。也。
- 二六才
- 01 又。戒。定。惠。外。道。旧。戒。旧。定。等。云。仏。客。戒。客。定。等。
- 02 云。也。九。惡。九。善。下。九。品。可。述。事。
- 03 問。文。意。如。何。答。今。慈。心。不。殺。之。句。之。下。不。殺。
- 04 生之善与殺生之惡。積畢修十善業之文下。
- 05 十善之中。後九善。十惡之中。後九惡。可。積。
- 06 不。積。下。九。品。護。也。
- 07 問。九。品。之。中。全。不。積。九。惡。九。善。如。何。答。可。積。
- 08 讓。彼。又。略。也。問。積。何。品。可。積。歟。
- 09 答。下。品。上。生。積。十。惡。中。三。品。可。積。十。善。也。或。下。品。上。生。
- 10 十。惡。与。十。善。并。可。積。也。今。文。不。殺。与。殺。生。並。
- 11 積。如。世。善。輕。微。感。報。不。具。等。事。
- 12 問。世。善。實。不。成。往。生。之。業。歟。答。不。爾。中。下。品。之。
- 13 文。單。行。世。福。之。積。分。明。也。世。福。往。生。之。業。成。也。
- 14 但。至。今。積。世。戒。二。福。相。對。輕。重。立。也。若。望。大。乘。
- 15 之。行。戒。行。又。劣。也。故。小。戒。力。微。不。消。五。逆。積。望。々。
- 16 積。知。三。福。之。輕。重。也。受。持。三。歸。事。
- 17 三。歸。有。五。一。翻。邪。三。歸。謂。外。道。凡。夫。改。邪。見。
- 18 始。入。仏。法。之。時。歸。仏。法。僧。云。也。二。五。戒。三。歸。謂。受。
- 19 五。戒。之。時。先。受。三。歸。次。受。五。戒。也。是。受。戒。之。法。明。
- 20 先。受。三。歸。戒。也。三。八。戒。三。歸。四。十。戒。三。歸。五。具。戒。三。
- 21 歸。已。上。後。三。三。歸。望。五。戒。三。歸。可。知。
- 22 戒。五。戒。在。家。之。五。戒。也。不。殺。生。不。偷。盜。不。邪。淫。不。妄。語。不。

飲酒也

△二六ウ〉

- 01 在家^{ニハテ}受不邪淫戒^ヲ不犯他妻^ヲ出家^{ニハテ}持不邪淫戒^ヲ
- 02 總不行姪^ヲ也 新訳^{ニハ}名欲邪行^ト旧名^{ニハ}
- 03 邪淫^ト也出家之不姪^ヲ名梵行^ト犯^ト名非梵行^ト也
- 04 此五戒男女共受男^ニ是受^ヲ云優婆塞^ト又名^{ニハ}
- 05 近事男^ト女受^{ツレハ}此^ヲ名優婆夷^ト又名近事女^トサテ
- 06 此戒^ヲ名近事戒^ト 八戒如上^ト
- 07 十善戒者身三口四意三也 二百五十戒略項事
- 08 四重四提^ニ不定十三僧殘七滅諍三十捨隨為六十
- 09 九十單隨百衆学「已上」是比丘之具足戒也
- 10 五百戒是比丘尼之具足戒也此二百五十戒五百
- 11 戒受後得比丘比丘尼之名^ヲ也比丘戒比丘尼戒^{トモ}
- 12 大僧戒^{トモ}具足戒^{トモ}名也 沙弥戒是沙弥十戒也
- 13 不殺生不偷盜不行姪不妄語不飲酒不脂粉
- 14 塗身不歌舞唱伎及横觀聽不上高広
- 15 大床不衣服愛麗不過中食「已上」是沙弥也
- 16 受^{ツレハ}之^ヲ名沙弥沙弥尼^ト又勤策男勤策
- 17 女^ト 已上五八十具之戒小乘戒也

18 菩薩三種戒「有瓔珞經」一小結儀戒正因仏性発心

19 是止惡也二聖善法戒是修善也了因報身三

20 饒益有情戒是大照之戒也縁因応身也

21 十无尽戒梵網十重禁戒也 智論^{ニハ} 自行

22 之五支悟他十戒アリ花嚴又有十无尽戒

△二七オ〉

- 01 □上大乘戒也
- 02 少分戒多分戒全分戒事
- 03 問其相如何 答一二戒持^ツ名少分戒^ト持^ツ三
- 04 四戒^ヲ名多分戒^ト五戒具持^{サニツツ}可名全分戒^ト也
- 05 問優婆塞戒經四一分少分无分多分滿
- 06 分之不同明 其相如何 答女經云若優
- 07 婆塞三婦受已不受五戒^ヲ名優婆塞^ト若
- 08 受三婦^ヲ受持一戒是名一分受三婦已受持
- 09 二戒^ヲ是名少分^ト若受三婦受持三戒已若
- 10 破一戒是名无分若受三婦^ニ受持四戒^ト是名
- 11 多分若受三婦^ニ受持五戒^ト是名滿分「已上」
- 12 經之一分戒少分戒合為可今少分戒^ト經多
- 13 分戒狹限^ハ四戒受持^ニ故今多分戒寬可^シ

- 14 通三四戒^ニ故^ニ經之滿分^ト與^ハ釈之全分^ニ全同也
 - 15 問受三戒^テ破^レ一戒名^ヲ无分戒^ト事未^レ得其現^ヲ
 - 16 如何^ニ答^テ三戒受^テ可^ク有三戒受持者^一破^レ
 - 17 □^ハ无^ト三戒之分云也 問若爾者^一二
 - 18 三四五之受者^ニ通^ク有^ク无分之名^一何限三戒
 - 19 受持^ニ歟 答^テ一^ニ顯^レ四^ニ歟
 - 20 問若^レ者何限^テ三戒受持^ニ明^ク之^ニ歟答^レ縱^ニ約^ト一二四五^ニ
 - 21 挙^テ其一^ヲ未^レ此難^ト避^テ但是略^也何況^一戒
 - 22 一分戒^ニ戒少分戒^ト說^レ畢^ニ不^レ懷^一二三
 - 23 實事^ニ且^ク挙^テ受^テ三戒^一之^ニ无分戒^ト也
- △二七ウ
- 01 又毘曇^ニ持^テ五戒^者破^レ一戒^余之^ニ四戒^破但^レ為^ル
 - 02 処中之善^ト也 經^レ了^成實^等一^破 毛^レ全^不破^ニ云也
 - 03 不^レ犯^威儀事 罪^ニ有^性罪^遮罪^一性罪者
 - 04 七支之惡也〔身三口四也〕遮罪者飲酒掘土伐
 - 05 草等也云^ハ性罪^ト七支之体^即罪性^ニ故^ニ
 - 06 云^ハ性罪^ト遮罪者七支之惡^為令^ニ不^レ作^制
 - 07 □□土等^ヲ也 不^レ犯^性罪^持名^性戒^止遮
 - 08 罪^名遮^戒是^名威^儀戒^一

- 09 問威儀者何様^讀歟答^レ儀^カサ^ルト^讀也
 - 10 權^威之^時ヲ^トスト^讀也成^猛威^勢皆^同讀^也
 - 11 悔過事 小乘^ニ无^四重^之悔^一破^レ遮^戒等^一
 - 12 許^懺悔^故云^犯積^悔過^一 小因者小乘^也
 - 13 身同虚空事 菩提心者^一切^衆生^獨
 - 14 不^識度^思故^其衆^生十^方無^行化^身虛
 - 15 空如^云也心^齊法^界者^啓衆^生心^一人^捨齊
 - 16 法界^ニ云也此願^尽未^來際^无終^故令^尽云也
 - 17 實^衆生^尽 菩^薩之^願念^皆度^思尽^有也
 - 18 次^約三^業身^業之^下恭^敬供^養禮^拜顯^也
 - 19 迎^送者^從彼^一此^來時^迎從^此至^彼時^送
 - 20 隨^衆生^來去^為是^親近^衆生^一出^生死^一入^ル
 - 21 涅槃^也口^業說^法言^下无^量人^導令^得悟^一
 - 22 意^業入^定觀^察以^大慈^心一^心應^機化^衆生^也
 - 23 問^何意^業之^下分^身法^界云^歟分^身可^身業^一
- △二八オ
- 01 歟如何答^分身^化身^也故^入定^意業^也
 - 02 問^菩提^心何^有功^德歟 答^涅槃^經云^發心^畢竟
 - 03 二^不別^如是^二心^前心^難已^上意^成仏^一易^趣菩^提

04 心^マ難也 発心者発菩提心也畢竟者成仏也
 05 二不別者始一切衆生度云意成仏一度一切
 06 衆生云別也 菩提仏果名等事
 07 問所発仏果能発衆生之心云也爾再其能求之
 08 心者八識九識之中何歟 答は大論義
 09 人々答不同也但大乘顯教 菩提第九識心第六
 10 識云也止觀之發大心之下 簡非顯是之文
 11 簡非イリタ心カリタ心^マ拳^テ即積聚精要
 12 之草木心也顯是之下 取悉咤心是了知分別
 13 之心也当第六識化身六識縁 悟不縁小
 14 乘意識近縁三世外世云大乘之性宗 有習
 15 事也是極大事也若真言 六識発心義総无也
 16 問第二卷第四卷所釈之菩提心同異如何
 17 答同也但二卷之菩提心聖道淨土不分別顯
 18 菩提心之相也此菩提心聖道門之菩薩居士如
 19 願一度衆生淨土門之菩薩若住 此自他共没
 20 知无利益先生淨土得神通之後還工土
 21 如昔願一度衆生也^{スル}以之^テ兩處之釈^ヲ可得意也二
 22 卷総釈菩提心四卷別淨土之菩提心異釈也

△二八ウ
 01 而有人二卷属聖道門一事无云事也淨土
 02 菩提心此別何様可発可熟歟 サレハ先師聖
 03 道之菩薩菩提心名行菩提心淨土之菩提心名願
 04 菩提
 05 心云義被立也
 06 深信因果有二事 問其中第一世間苦
 07 樂因果文有其第二之因果何物歟答
 08 第二可出世之樂因果顯 故略也
 09 印壞文成事 問意如何 答涅槃
 10 師子吼品云如蠟印与泥合印滅文成而
 11 是実印不反在泥文非出泥不余処来
 12 以印因縁而生是文現在陰滅中陰々生
 13 是現在陰終不反為中陰五陰中陰亦非
 14 自生不從余来因現陰故生 中陰如実
 15 印々泥壞文成「已上」
 16 苦法如毒惡法如刀事 苦法生死之果也
 17 如毒者不受毒一旦如可思不受苦果也 惡法
 18 者生死之因也 如刀者生死之業因不作思事

- 11 淨土引給也彼菩薩成就衆生行又菩薩自行
- 10 諸仏先引三福淨土構実行三福衆生
- 09 成就衆生之願違相彼論委悉釈今文一也
- 08 是止自仏果之上淨土ミカキ然後他是令行
- 07 土成就衆生明始從十惡供有相之善皆
- 06 先師殊明智論被立此義也智論菩薩成仏因
- 05 為往生之業可励心故釈引聖凡一也此事
- 04 所行三種之淨業忝行也サレハ我等行之
- 03 諸仏成道正因此相違會通而三世諸仏之
- 02 三種之淨業上文説凡夫往生之業下文説
- 01 經文前後相違之難有会釈釈也如何相違
- 〇二九オ
- 21 聖者三世諸仏也凡者思令未來世一切凡夫也
- 20 引聖励凡事問文意如何答
- 19 苦果云損害衆生也今卷之下申勸進之意也
- 18 如刀刃當身一思云也而如刀作惡業如毒

- 12 三福他力為外縁一行三福衆生行因助
- 13 令作生因也問仏定散之万善圓滿給何
- 14 限散善之三福説諸仏正因歟答実如難
- 15 但今文散善自開之便受説諸仏正因許也
- 16 是則諸仏以三福為成仏之正因衆生又以三福
- 17 為往生正因説為也問若爾者淨土三福
- 18 色顯タル也衆生隨一福修往生無疑而何此
- 19 經殊念仏修明歟答卅八願生因之願爾説也
- 20 総云三福生因成云別願之意衆見
- 21 念仏修也平等之慈悲之中選出念仏
- 22 往生之願余慈悲慈悲之色滋也
- 〇二九ウ
- 01 定善示觀縁処
- 02 如來已許今就此文正欲開顯正受方便事
- 03 問如來已許意如何答如來已許者於顯行縁
- 04 之許説也彼時許説為散善自開即
- 05 不説定善故取示觀縁正定善説重
- 06 許説給也正欲之正字對顯行縁之許説也
- 07 問正受方便者意如何答有二正受者十

- 08 三觀方便者示觀緣也今云正受者行者
 - 09 之定行方便者十三觀之教門也依經「修定」
 - 10 故教入定之方便也
 - 11 因緣極要利益処深事
 - 12 問因緣極要者何法歟答定善也 難云
 - 13 今經之本意開散善「撰散機」對愚惡之
 - 14 機「顯念仏」是其本意也可云「是因緣之極
 - 15 要」如何答當緣之意定善序也故賞
 - 16 歎「定善」勸機也但就今經「有二之本意」
 - 17 隨「并提請」定善為正「二約」仏之本意「念仏
 - 18 為正」二正中念仏実「雖正也」今當緣之意就
 - 19 隨機明定善「且是云因緣極要」也例如
 - 20 法花雖出世之本懷也涅槃經之三子三馬三
 - 21 田等之譬菩薩為先「故當又定善而立因緣
 - 22 極要讚也他從仏意「此定善」下散善「念仏
- △三〇才▽
- 01 □タル事勿論也 私云因緣者往生之因緣也
 - 02 問因緣者何者歟 答往生之因緣也即行因教
 - 03 緣之上正受用方便緣也

- 04 問曠劫希聞如今始說者意如何答曠劫
- 05 之中今生始聞故云希聞望「仏是云始說」也
- 06 難云三世諸仏皆說觀經「給何云」始經「衆生无
- 07 始」有聞法之種子何希聞云歟 答結緣之聞法
- 08 属不聞「可得生」在聞法「希聞」也始說者今并
- 09 提及未來之我等為「釈迦之說給說」當不遮
- 10 余仏之對「余機」說「觀經」
- 11 問利益処深者指无生「歎指往生」歎答「二
- 12 通也」當文云得无生忍「正宗処說」往生「
- 13 可思之」總命「二人事」
- 14 問文意如何 答「釈趣分明也此則第二第三之文」
- 15 意探「告命故釈趣也所詮」告命「二人事」
- 16 慇懃鄭重之故也上顯行緣之許說雖許說「散
- 17 善自開為本意故夫人一人告命今當緣之
- 18 告命近說觀之利益「勸機」之励修「故
- 19 苦告一人也所詮」當緣之本意勸修得益
- 20 定善利益說フ【於】テラカノ令機「イソキ修
- 21 定善」思也 如来臨化偏為常没等事
- 22 問是通「聖道浄土」又限「浄土」歎心「総」仏

23 エ土成^ニ覚^ハ不^ニ論^ニ聖道^ヲ浄土^ヲ為^ル化^ル常没^ニ也^イ但於^テ

三〇ウ

01 常没^ニ之^ニ機^ニ有^ニ疾弱^ニ故^ニ此教^ハ正^ニ常没^ニ之^中怯弱

02 之^ヲ機^化也^今积^ル此意^也尋^ニ云^ハ仏出^ルエ^ニ土^ニ事^ハ

03 為^ト常没^ニ凡夫^ノニ^ニ事^有何^ノ証^カ歟^答其証^是多^シ

04 且^ク法花^ノ信解^品父子^ノ相告^テ父子^ノ相見^之之^ノ譬^可思^之

05 法身^ノ菩薩^何故^来エ^ニ土^ニ聞^ク法^歟答^正出^ル

06 エ^ニ土^ニ事^為凡^ニ而^ハ聖人^此来^事有^三故^ニ天台

07 判^シ給^ハ一^ハ為^自熟^ニ二^ハ為^熟他^ニ三^本縁^之故^云也

08 為^未来^世煩^惱賊^害事

09 問^未来^世者^指何^ノ機^歟煩^惱賊^害者^何機^歟

10 答^未来^者如^来滅^後也^可通^ニ正^像末^ニ但^ニ元^照釈^云

11 為^未来^者正^指像^末也^已上^ニ是^隨口^ニ釈^也大^師

之

12 普^沾来^潤釈^給不^別正^像末^ニ但^何傍^ニ

13 正^法正^像末^ニ可^思食^也煩^惱賊^害者^大師^判

14 凡^夫障^重元^照煩^惱賊^害判^具縛^凡夫^也釈^{セリ}

15 聖^同意^也私^云煩^惱者^四重^之煩^惱也^別段^也

16 三^惡火^阇闍^在人^之足^事問^闍在^人足^意

17 如^何答^三途^皆地^下有^地獄^過地^下一^千由

18 旬^ニ有^等活^ニ余^七下^安立^无間^之底^去此^四万^也

19 鬼^界地^下有^五百^由旬^ニ畜^生有^大海^之底^正

20 地^下无^大海^從此^地下^也今^對三^途之^本住^処

21 云^在人^足下^也隨^縁起^行事

22 問^何行^歟答^不可^定何^行只^具縛^之凡

23 夫^所修^微劣^之善^根也^所起^煩惱^強有^力所^修

三二オ

01 之^善根^弱无^力故^判失^此法^才也

02 若^爾者^具縛^之凡^夫不^可有^出離^之期^{如何}

03 答^如来^之化^儲縁^中為^此也^凡夫^之出^生死^事依

04 仏^教也^上如^来臨^化偏^為常^没釈^此意^也失^此法

05 才^者凡^夫之^木成^釈也^流転^分ニ^云失^此法^才

06 還^滅法^云説^清淨^業也^流転^者又^名下^転釈^論

07 云^諸染^法有^力諸^淨法^无力^背本^下々^転名

08 為^下転^門已^上還^滅者^思名^上転^同論^云諸^淨

法

09 有^力諸^染法^无力^向源^上上^々転^名為^上転^門已^上

- 10 而聖道三業之上^ハ、^ヲ轉唯自力^{ナルカ}、故難進^{ニク}淨土之上^ニ
- 11 轉有^{ハルカ}他力之救護^ニ、故易進^{ニキ}也。是入淨土門^ニ
- 12 定散念仏皆乘^{スレハ}、他力^ニ易進^ニ於淨土之機^ニ、輕次^ニ
- 13 重罪之人^ハ、乘称名之他力^ニ進也同乘^{レトモ}、他力^ニ定散^ハ、
- 14 乘^{ルカ}十九之願^ニ、故弱念仏乘^{ルカ}十八之願^ニ、故強生因^ト与^ト
- 15 来迎^ヲ、願意可思^シ之^ヲ、但今清淨業^ハ、当文^ハ十三
- 16 定善之許說也
- 17 問有人云定散二善云失此法才^ト也、念仏謂不變^ト
- 18 法也^ト、云此義如何、答サテハ聖道出離^{モク}无可^ク
- 19 无^{カル}淨土之中定散往生^モ、請法罪甚^{シキ}、義也
- 20 說清淨業事、問清淨業者何^{ナルソ}行歟
- 21 答有二釈^ト

【註】

- (1) 細川行信「親鸞消息の研究―特に有念無念の諍論について―」(『印仏研』二二二、一九五四年)
- (2) 坪井俊映「金沢文庫蔵「親経疏聞書」の研究」(『仏教文化研究』三二、一九八六年)
- (3) なお、『玄義分聞書』は拙論「鎌倉浄土教における親鸞思想の形成と展開」(龍谷大学博士論文、二〇二〇年)において翻刻資料を掲載した。
- (4) 廣川堯敏「金沢文庫本「親経疏聞書」と「光明抄」―良忠教学の思想基盤―」(『浄土宗学研究』二八、一九九二年、一〇一頁)
- (5) 為序正流通「已上」…次行余白に補記
- (6) 之…右傍に筆の跡あり
- (7) 說…右傍補記
- (8) 者…「等」と右傍註記
- (9) 簡…「簡」を「簡」と右傍訂記
- (10) 簡…「簡」と右傍訂記
- (11) 仏…右傍補記
- (12) 在…「如」を「在」と右傍訂記
- (13) 亡…「亡」と右傍訂記、その右傍に筆の跡あり

- (14) 経…右傍補記
- (15) 九…右傍補記
- (16) 五…右傍補記
- (17) 人…「也」を「人」と右傍訂記
- (18) 等…右傍補記
- (19) 得…「徳」と右傍註記
- (20) 三…右傍補記
- (21) 待…右傍補記
- (22) 生…右傍補記
- (23) ○此有へキ歟…12行目と13行目の行間にあり。16行目の頭に線を引く
- (24) 行…右傍に「果海」とあるを抹消
- (25) 並…上欄補記
- (26) 戒…右傍補記
- (27) 世…「口歟」と右傍註記
- (28) スノ…「スノ」と右傍訂記
- (29) 含…右訓「スルハ」を抹消
- (30) 也…「歟」と右傍註記
- (31) 婦…「福」を「婦」と右傍訂記
- (32) 劫初…本来行頭にあるを線を引き行末へ入れ換え指示
- (33) 不…右傍補記
- (34) 舞…「ニイ」と返点位置に註記
- (35) 約…右傍補記
- (36) 真…右傍補記
- (37) 旦…右傍に「思」とあり
- (38) 智…右傍補記

(39) 説…「説」と上書訂記

(40) 進…右訓「カ」を抹消